

田中里子さんへの手紙



2007年5月23日

特定非営利活動法人 東京都地域婦人団体連盟

目 次(敬称略・五十音順)

| | | | |
|-------|----|------------------------|----|
| 惜別の言葉 | 3 | 加藤真代 | 33 |
| 青山三千子 | 5 | 上 伸子 | 34 |
| 青山 侑 | 6 | 亀田篤子 | 35 |
| 安藤恭二 | 7 | 川崎昭一郎 | 36 |
| 池山恭子 | 8 | 河田日出子 | 37 |
| 石毛克政 | 9 | 神田道子 | 38 |
| 石戸谷豊 | 10 | 北川公造・丈子 | 39 |
| 夷石多賀子 | 12 | 紀平悌子 | 40 |
| 磯辺浩一 | 13 | 工藤 久 | 42 |
| 伊藤康江 | 14 | 工藤爽子 | 43 |
| 糸田省吾 | 15 | 工藤芳郎 | 44 |
| 稲川貴美子 | 16 | 国弘正雄 | 45 |
| 稲葉良子 | 17 | 黒崎照子 | 46 |
| 伊従 寛 | 18 | 小池吉子 | 47 |
| 岩佐恵美 | 20 | 近藤とし子 | 48 |
| 岩垂 弘 | 21 | 斉藤みき | 49 |
| 及川昭伍 | 22 | 坂野直子 | 50 |
| 大北恭子 | 23 | 佐々木計三 | 51 |
| 太田吉泰 | 24 | 佐々木春夫 | 52 |
| 大野省治 | 25 | 佐藤喜次 | 53 |
| 小川 泰 | 26 | 志熊敦子 | 54 |
| 荻生万寿子 | 27 | 品川尚志 | 55 |
| 長見萬理野 | 28 | 柴田桂馬 | 56 |
| 小澤重久 | 29 | 渋谷 隆 | 57 |
| 菓子初音 | 30 | 司法に国民の風を吹かせよ う実行委員会 | 58 |
| 勝部三枝子 | 31 | 島田雄二 | 59 |
| 勝俣恒久 | 32 | 島野 康 | 61 |

| | | | |
|----------------------------|----|----------|-----|
| 社団法人生命保険協会事務局一同 | 62 | 丸田輝武 | 86 |
| 社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 | 63 | 水越雅子 | 87 |
| 鈴木深雪 | 64 | 水野英子 | 88 |
| 関口 和 | 65 | 水原博子 | 89 |
| 高梨洋子 | 66 | 皆川益枝 | 90 |
| 高橋明子 | 67 | 三村光代 | 92 |
| 高橋ルリ子 | 68 | 宮原勇雄 | 93 |
| 玉本雅子 | 69 | 宮原恵子 | 94 |
| 土田あつ子 | 70 | 宮本一子 | 95 |
| 寺田かつ子 | 71 | 村山正実 | 96 |
| 藤平 典 | 72 | 森下一徹 | 97 |
| 富山洋子 | 73 | 森谷敦子 | 98 |
| 中野三千代 | 74 | 八木博子 | 99 |
| 中村雅人 | 75 | 安田和也 | 100 |
| 名和三次保 | 76 | 安増武子 | 101 |
| 西田 溥 | 77 | 山下陽枝 | 102 |
| 端山純子 | 78 | 山田昭雄 | 103 |
| 原早苗 | 79 | 山手 茂 | 104 |
| 飛田恵理子 | 80 | 山本英典 | 105 |
| 兵頭美代子 | 81 | 谷茂岡正子 | 106 |
| 福田 繁 | 82 | 横溝雅夫 | 107 |
| 福本悦子 | 83 | 吉田嘉清 | 108 |
| 藤原房子 | 84 | 和食昭夫 | 109 |
| 松田宣子 | 85 | 田中里子さん略歴 | 110 |

惜別のことば

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟

会長 川島霞子

田中里子さん、あなたに始めてお会いしたのは芝の児童館でございました。共に二十代、希望に満ちた若き頃でした。以来、50数年、本当に長い歳月をあなたは、地婦連と共に歩んでいらっしゃいました。まさか私がこのような形でお別れのことばを書くことになるとは思ってもかけず、悲しさと淋しさにただ耐えております。

人は若き頃、理想と志にもえて人生を歩みだします。しかし、何ほどの人々がわが理想を貫くことができたでしょう。里子さん、あなたは幸せな方でした。見事に我々が持てる理想を具現化し、その志を果たされました。

山高しげりという卓越した婦人運動家との出会いがまずあなたの第一歩でありました。そして又すばらしいご夫君義郎様という生涯の伴侶を得られたことです。このお二人によってあなたはより高い理想と幅広い社会観を持たれたと存じます。まさに水を得た魚というべきでしょうか。地域の婦人団体を大同団結し、全国地域婦人団体協議会というわが国一の大きな女性組織に育て上げました。それからのあなたの活躍は目ざましいものでした。

核兵器廃絶の国民的運動の先頭に立たれ、実行委員長として原水爆禁止世界大会の統一を実現されました。1978年の第一回国連軍縮特別総会でのあなたの胸を揺さぶる様な切々たる演説は、世界各国の代表に深い感動と平和の尊さをしっかりと確信させたと存じます。

あなたは、女性の地位向上、男女平等を説いて全国各地を廻られました。地域の女性一人一人の意識の改革を強く訴え「種を蒔かなければ花は咲かない」があなたの口ぐせでした。

カラーテレビ二重価格問題では、「買い控え運動」というまことに主婦らしい発想

で、しかし初志はしっかり貫徹したことも忘れられません。

また「ちふれ化粧品」の開発販売というまことに大きな事も手がけられました。化粧品の成分の分析のもと、みちびき出した結論から、徹底的に容器の簡素化、宣伝活動をせずに、百元化粧品「ちふれ」を世に出し、化粧品への世の人たちの意識の革命をなしとげられました。以来婦人会員の協力のもと今や、「ちふれ化粧品」は大きく育っています。

何ごとにおいてもあなたの鋭い、感性と先見性、そして女性ならではの優しさ、ねばり強さは類まれなものでした。青の童女のような笑顔の中に、何ものにも屈しない強さを秘めて私たちを導いてくださいました。

政府税調、女性問題懇談会などの委員として、地域の女性たちの声を中央政府へ伝える役割もしっかり果たして下さいました。

そして里子さんのお手柄の大きな一つは、多くの後輩を育成なさったことです。ご自身のお子さんはなかったけれど、本当に皆わが愛娘のように時にはやさしく、時には厳しく指導していらっしゃいました。これも誰にでもできることではありません。里子さん、安心して下さい。あなたの愛し育んだ愛娘たちは、現在しっかり地婦連事務局を守っています。

これからは、天の星、地の花ともなって私たちを守り導いてください。最後に国文学専攻であった里子さんに西行の歌を捧げます。

願わくば、花のもとに春死なん　そのきさらぎの望月の頃
まことにこのお歌のとおり、見事なご終焉でした。せつにご冥福をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。里子様

里子様。とお呼びかけすることをお許し下さい。日本の巨大組織“全地婦連”をまとめ、消費者運動史上、女性史上偉大な役割を果たされながら、少しも奢らず、高ぶらず、穏やかで優しくて、いつもニコニコ。国連総会（1978年）で、核軍備撤廃を訴えられた堂々たるお姿と朗々たるお声とは別に、私たちにはいつも親しく“そうねえ”と、フランス語のような少し鼻声で話された懐かしい里子様。

1961年、日本初の欧米型商品比較テスト情報と消費者相談情報を提供する消費者協会が生まれた時、私は、時の山崎進専務について、当時芝公園にあった地婦連に幾度も伺いました。故山高しげり会長に会うことが目的でしたが、頼みの綱はいつも、ご結婚前のお若い渡辺里子様、つまり、田中里子様でした。男性も女性も、皆、隠れた里子ファンでした。

最後にお会いしたのは……思い出すと悲しくなりますが、霞ヶ関ビルの一室で開かれた消費者情報研究会でのご講演でした。ビデオを交え、資料を示し、分かりやすく、ゆっくりと、カラーテレビ買い控え運動やちふれ化粧品のことなど、戦後日本の消費者運動史を、地婦連の運動史として、そして、紛れもなく自分史として静かに語られました。何の気負いもなく、淡々と話されながら、消費者の権利の論点を譲らない頼もしい大リーダー振りでした。

私事ですが、病気の先輩でもありました。“大丈夫よ”と何度も励ましてくださいました。今年は、正月から気候が不順で、暫くお目にかからないが、里子様は元気かと、夫とお案じ申し上げていました。夫は、広島の前爆問題や社会学の立場から、昔から里子様を存じ上げていました。里子様のご逝去の報に驚き、喪失感を味わっていますが、これまでありがとうございました。忘れません。

青山三千子

元国民生活センター理事

田中里子さんへの手紙

私は目黒区消費生活係長のときに田中里さんと知り合いました。もう30年以上前のことです。当時、合成洗剤や表示の問題が消費者運動の主要課題でした。いつも毅然とした姿勢ですっきりと消費者の立場から主張する田中さんの姿勢はとても印象的でした。

その後、私は都庁のなかでいろいろと仕事を変えました。でも幸い、消費者行政に関わる事が多くて、田中さんのお顔を拝見し、お話を聞く機会は多かったと思います。

生活文化局の企画課長、計理課長、総務課長や政策審議室の計画部長のころには、行政内部で消費者と直接関わる部門と事業者に関わる部門の統合問題がありました。私は、消費者の立場に立つ行政があって初めて社会における力関係のバランスがとれると考えて、統合に反対でしたから田中さんたちの反対論は強力な援軍でした。田中さんの一貫した姿勢は揺らぐことがなかったですね。私が自由人になってからも、私が「市場化と公共関与」をテーマにしていることもあって、消費者運動の関係の会でお目にかかることがあり、とてもうれしかったです。

今、世界的に経済・社会の市場化が進むなかで、規制すべきものと市場化すべきものとの区別がきちんとなされず、市場化原理主義すなわち市場化はすべていいことだという考えが通用しがちです。市場化の進行に対して、政府・自治体・市民・消費者など公共が関与してルールを守らせるシステムをつくっていくことが求められています。こういうときだからこそ、田中さんの存在はとても貴重だったのです。

田中さんの遺志を継いで、市民の立場から消費者運動の一端を担っていくことをご霊前に誓いたいと思います。どうぞこれからも毅然とした姿勢で天国から私たちに叱咤してください。

青山 侷（やすし）

明治大学大学院教授（元東京都副知事）

東京の消費者運動に関りご一緒させていただき 30 年余、本当にお世話になりました。

様々な思い出がありますが、そのひとつは、1985 年の東京消費者団体連絡センターの結成です。東京の消費者運動が前進する中で、消費者団体のネットワーク強化の必要性から新組織の結成をお呼びかけしました。賛否様々な意見が出される中、田中さんは東京地婦連として提案を積極的に支持し、周りの団体をも説得し結成に大きな役割を果たしてくださいました。連絡センターの結成はその後の東京の消費者運動の広がり大きく貢献しました。

もうひとつが第五福竜丸のエンジン保存運動です。1996 年紀伊半島熊野灘からエンジンが引き上げられ、「和歌山県民運動」から東京での受け入れが要請されました。この要請に応えるため、「非核東京宣言」「核兵器のない東京を！平和のつどい」などを共同して取組んできた田中さんに相談しました。その中で田中さんは第五福竜丸事件は日本の原水爆禁止運動のきっかけであり、都内の平和を願うすべての人々の参加する運動とすること、そのためにも市民団体が中心的役割を果たそうと自らの戦争・運動体験から提案されました。和歌山から市民団体のリレーで運ばれたエンジンは 1998 年 3 月に東京都に贈呈することができました。運動の過程で贈与契約、展示方法、保存のための防錆処置など様々な困難な問題が発生しましたが、田中さんを中心に粘り強くひとつひとつ解決し、2000 年 1 月に展示を実現しました。

ご一緒した運動の中で、田中さんの一貫した他者を思いやる心を学ばせていただきました。本当にありがとうございました。安らかにお眠りください。

安藤恭二
元東京都生協連常務理事
元東京消費者団体連絡センター事務局長

「田中さんどうしましょう」、でも里子さん頼みはもうできないのですね

田中里子さんは、PL法制定、消費者契約法制定、サッカーくじ反対、消費税反対等の消費者運動、そして平和運動、婦人運動の先頭に立ち私たちをリードしてくださいました。

特に東京消費者団体連絡センターが大きな運動に取り組むさいには、代表委員として必ず中心にいらして実に頼りがいのある存在でした。東京消費者団体連絡センターの課題についていつもお話になっていたのは、連絡センターは東京の消費者団体のネットワークだということを意識してなさいということでした。「全国的な消費者問題に取り組むことはあたりまえ。しかし連絡センターは東京のネットワークなんだから。東京の消費者問題をやりましょうよ」が口癖でした。そして個人的には、私が事務局長として判断に迷う時「どうしましょう」と駆け込む先でした。すると口調はゆるやかですが、明確で具体的な助言をして下さいました。「大丈夫、それでいいのよ」と背中をポンと押してくださると、安心して次の課題に取りかかることができました。

これからは困ったときに「どうしましょう」と里子さん頼みは出来ません。不安で一杯ですが、消費者団体のネットワーク発展のために力を尽くすことが田中さんへのお応えと思い努めていきます。

事務局長 池山 恭子

東京消費者団体連絡センター

故田中里子様へ

初めてお会いしたのは私が東京電力の役員をしている頃、電気事業審議会の下部の電力安全問題についての委員会でした。私が平成12年に（財）関東電気保安協会に参りましてからは常勤、非常勤の立場の違いはありましたが、協会の先輩理事ということで親しくご指導をいただき本当にありがとうございました。

一般家庭の電気安全調査について自由化するという議論の際は、安全に関わる規制緩和は慎重に行うべしとの立場で、公正・中立、消費者保護などの面から、安全調査の指定機関の拡大にはかなりの慎重論を唱えられました。

平成10年6月から6年間、（財）関東電気保安協会の理事として、消費者の視点から電気保安事業の運営についていろいろとご指導をいただきました。国の委員会の席でもそうでしたが、ゆったりとしたご発言ながら、主張すべきところはきちんと主張なされた姿を懐かしく思い出します。

理事を辞任されてからは、東京地婦連が開催する観劇会で時々、遠くから見つけていただき親しく声をかけていただいたことを懐かしく思い出します。

協会本部のすぐそばの病院に入院されておりお亡くなりになったとは、お別れの会のお知らせをいただいて初めて知り、びっくりすると同時に、理事会にご出席いただいた頃の雰囲気をおもひ起こし、お人柄を偲びつつ、今はただご冥福をお祈りするほか術はありません。

本当にお世話になり有り難うございました。どうぞ安らかにお休みください。

石毛 克政

財団法人 関東電気保安協会理事長

千の風にのって

小高い丘の上に
一本の桜の木がございました。
一本の桜と申しましても
まるで、こんもりとした森のように
それは大きな桜の木なのでございます。

暖冬のせいでもございましょう
今年はまだ、3月も半ば頃から
ちらほらと咲き始めて、
月末には、すでに満開になっておりました。
それはもう、絢爛な小宇宙と申しましょうか。
私は、その見事さに、片時も目を離すのがおしくて
暇さえあれば見入っているのでもございました。

そして、あの28日を迎えたのでございます。
その日、星空が曙色に変わる時分
満開の桜は、ついにハラハラと
散りだしたのでございます。
音もない空間を
ゆっくりと散る花びらは
時が止まった中を舞っているような
荘厳な光景でもございました。

すると突然、
あちらこちらから
ゴウゴウと風が吹き出して
花びらという花びらが
四方八方に飛び出したのでございます。
この世界がもう
花びらで
満たされたようでもございました。
よくよく見ると
どんとどんと舞い上がった花びらは
ずんずん昇って、雲も超え
有明の月にまで
届くようでもございました。

なんとも神々しい光景で
思わず目を閉じますと
その花びらは、どんとどんと飛んできて
私の心の中でも舞っているのでもございます。
そこで、ハッと気が付きました。

私はこれから、この桜の花びらとともに
生きていくのだなあ、
そのように思えたのでございます。

ふと目をあけますと
いつの間にか
丘の上には大勢の人が集まっていて
この不思議な光景を
見つめているのでございました。
皆さん、きっと、私と同じ気持でございましょう。

弁護士 石戸谷 豊
日本弁護士連合会消費者問題対策委員会（元）委員長

消費者運動の大先輩の田中様の御訃報に、驚きと悲しみ、そして感謝の気持ちでいっぱいです。

国の消費者政策への要請活動ばかりでなく、足下から改革する必要性を鑑みてか、地域社会への貢献により、すばらしい実績を残されました。

そのひとつとして、東京都消費生活対策審議会委員としての、品質表示の適正化を中心とした先駆的な取り組みへの進言は、東京都消費生活条例に反映され、都民の消費生活の安全性の確保と表示の適正化が図られるなど、消費生活の向上に寄与されました。

同委員には、昭和49年11月からの第5次～第10次は、地婦連事務局長として、第12次～第13次は、生活をまもる都民会議座長として、第14次～第16次の平成13年5月迄は、地婦連事務局長や都地婦連常任参与として、通算22年もの長きにわたり貢献されました。

特に、所属団体としての活動にとどまらず、都内の消費者団体の代表として、生活をまもる都民会議の座長も長く務められるなど、多くの皆さんから信頼され、とりまとめの中心として大活躍されました。

スマートで気品のある姿が、今でも目に浮かびます。そして、消費者のために毅然とした要請行動により、社会をより良い方向に導かれました。

私は、東京都の職員として、多くを学ばせていただきました。そして、今は、自由に消費者問題に取り組み、少しでも教えを活かし、実践できるように努めたいと思っています。

どうぞ、千の風になって、叱咤激励してください。

合 掌

いせき たかこ
夷石 多賀子

元東京都職員

田中 里子 さんへの手紙

田中里子さん、はじめてご一緒に仕事をさせていただいたのは、1999年に私が全国消費者団体連絡会（全国消団連）の事務局に勤務したときでした。

PL法の施行状況を監視し法改正や運用改善を提言する組織として、全国消団連に設置されたPLオンブズ会議。田中里さんは、その中心メンバーとして活動されてきました。特に、サンヨー冷凍庫の出火被害にあった北川さんの裁判を支援され、原告である北川さんや原告弁護団との厚い信頼関係を築いていらっしゃいました。東京都地域婦人団体連盟（東京地婦連）をあげて北川さんの支援に取り組み、PLオンブズ会議の年に一度の報告会には、今も東京地婦連の方々が多数参加されています。消費者団体として、個別の事件の支援を行なうことは、勇気ある決断だったと思います。被害者の気持ちに寄り添って活動された姿勢に敬服いたします。

新聞再販の問題でも、田中里さんは消費者団体の中心となって活動を担っていらっしゃいました。主要紙各社の役員クラスとの意見交換会では、消費者団体の理論的支柱として確固たる論陣を張っていらっしゃいました。頼りになる大先輩でした。

消費者機構日本の設立に際しても、田中里さんに、強くご支援をいただきました。また、消費者団体訴訟制度を担う新しい組織としてのあり方など、設立総会で励ましとご助言をいただいたことを、今も鮮明に思い出します。

昨年来、体調がすぐれないとほうかがっていましたが、まだまだご一緒に活動できる機会があると思っていましたので、本当に残念です。

田中里さんが目指されていた消費者の権利の確立は、消費者関連法の整備がすすみ、消費者基本計画のもとに各省庁でも消費者政策が重視されるなど、その流れが強まっています。この流れをいっそうすすめる一翼を担うべく私も頑張っていきたいと思います。どうか、見守っていてください。

磯辺浩一

特定非営利活動法人消費者機構日本

理事・事務局長

お会いする度にきゃしゃなお体がますます細くなられておりとても心配していました。

とうとうお別れの時がきてしまいました、とても悲しく残念に思います。

田中さんとは公正取引委員会での書籍の再販制度、農林水産省では食品の日付表示、遺伝子組換え食品の表示問題など、振り返れば「3人トリオだったね」と言われるほど、主婦連合会の和田正江さんと共にがっちり組み運動を続けてきましたね。これらの運動を通して、行政との対峙の仕方、消費者委員としてのスクラムの組み方など消費者運動の大先輩として多くのことを学ばせていただきました。これからも多くの後輩へご意思は引き継がれることと思います。

04年12月、当時勤めていた前の団体を辞め、フリーで細々と「たまごの表示に関するアンケート調査」など行っていました。返信の余白に“ご苦労さまです。い
いかげんな表示は排除して下さい。伊藤さんガンバレ”と力強い文字で書いて下さいましたね。

もうそろそろ消費者運動をやめたいと考えていた矢先です。何時もの田中さんの企業の不正に対する怒りが心に届き、私の残された人生の方針が決まりました。

そのお言葉に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。お伝えできなかったことが残念です。せめて手紙に託させて戴きます。長い間いろいろありがとうございました。

お礼申し上げます。

伊藤 康江

元 消費科学連合会事務局長

現在 食の安全・監視市民委員会常任運営委員

日本有機農業研究会理事

田中里子さんといえば、すぐに思い出すのが昭和40年代の中ごろに起きた「カラーテレビの二重価格」問題である。二重価格といっても、昨今の不当表示になるような二重価格表示ではない。当時、カラーテレビは、1インチ1万円といわれていた時代で、19インチカラーテレビが19万円台で売られており、消費者にとっては高嶺の花でもあった。ところが、それと同じものが国内販売価格の半値程度で輸出されていたことが判明し、自国の消費者の犠牲のもとに輸出を促進しているとして大きな社会問題になった。これが「カラーテレビの二重価格」問題であり、これを取り上げたのが、田中さんであった。

田中さんのすばらしかったのは、単にムードで問題だというのではなく、綿密な実態調査に基づいて問題を解明したことである。田中さんは、国内の実売価格が割高な原因は、地域によってはかなり安く販売されているにもかかわらず、そのような実態を反映しない高額なメーカー希望小売価格が設定され、それが実売価格を高止まりさせていることにあることを見抜き、そのようなメーカー希望小売価格の表示は商品の価値を適正に反映しておらず景品表示法上問題があると主張された。その主張が受け入れられ、メーカー希望小売価格が是正された結果、実売価格が低下したのである。要すれば、田中さんは、高邁な理論と精緻な実態分析に基づいて、消費者利益に直結する消費者運動を実践されたのである。

田中さんのすばらしさは、その後の主張によってさらに補強される。それは、価格は需給によって決まるものだから、メーカー希望小売価格が高すぎるというような論理は二重価格問題を解決するためのやむをえない緊急措置であり、問題が解決した後は直ちに廃止すべきであると主張されたのである。事実、問題とされたのは実売価格から著しく乖離した高額のメーカー希望小売価格の表示であったにもかかわらず、メーカー希望小売価格からあまり安く販売すると問題だという値引きを抑制する逆の論理がその後しばらく見え隠れしていた。田中さんは、この本質を的確に把握されていたのである。

その田中里子さんの警咳に接することはもうできなくなってしまった。合掌。

全国公正取引協議会連合会副会長 糸田省吾

田中里子様を偲んで

田中さん、田中さんがこの世からいなくなってしまったなんて、とても信じられません。突然の訃報を伺い胸が一杯です。

最初の手術をなさった時は、事務局皆でお見舞いに行かせて頂きました。ご病気とは思えないほどお元気で明るく、前向きな姿勢が印象に残っております。病気と闘いながら笑顔を忘れず、平和運動、婦人運動、消費者運動と活躍されていました。田中さんのその強さ、みごとさを私は一生忘れません。そんな素晴らしい方に出会えてことに感謝の気持ちで一杯でございます。

そもそもの出会いは、社団法人栄養改善普及会に所属しておりました私が、東京地婦連のお台所ダイヤルにお手伝いに行くことになりました。当時、私は結婚して間もなく、お勤めの経験もない大変未熟者でございました。でも、温かく迎えて下され、お仕事の他、田中さんならではのお人柄を学ばせて頂きました。それは今、私の宝物です。

田中さんのお側が居心地よく、25年間お仕事をさせて戴きました。その間、いろいろなことを教えて戴きありがとうございました。

たくさんの楽しい思い出をありがとうございました。素敵な笑顔をありがとうございました。心からのありがとうを田中さんにささげさせて戴き、お別れの言葉とさせていただきます。

稲川貴美子
女性都民クラブ

平成 19 年 3 月 28 日、皆にとって大事な大事な田中里子さん、千の風になって、遠くの方に旅立ってしまいました。何て、悲しい、さびしい知らせ。思わず涙がポロポロとほほをぬらして止まりません。

おさげ髪の可愛らしい二十代の頃から今日まで、夢中で社会のため、友のため、運動を続けてこられた田中さん、ご苦労様でした。でもこれは誰でも出来ることではない。すばらしい業績をたくさん残されました。田中さんは本当に立派な人生の道をたどられたと尊敬の気持ちでいっぱいです。

幸いなことに、ビデオに田中さんの想いが残されています。ビデオの田中さんと対話をしながら、私も老いの身にむちを打ち、地婦連のお仲間と一生懸命がんばりたいと思います。

今年 4 月の第五福竜丸でのお花見平和のつどいの日を、眼の前にして亡くなられたことは本当に残念でなりません。田中さんの優しくほほ笑みながらのお話を聞くことができなかつたこと、桜も心なしかさびしそうにうなだれて咲いていました。

桜の下で、皆で“田中さん”と呼びかけてしまったの、聞こえましたか？ 笑いながら眺めて下さったことと信じています。何時までも私たちを守って下さい。淋しいけれど皆でがんばります。

田中里子さんは私たちの心の中に、いつまでも生きつづけていることでしょう。

稲葉良子

東京地婦連社会福祉部長

40年前の田中里子さん

思えばもう40年前のことになります。私は1996年4月から69年まで3年間、公正取引委員会の景品表示課長をしておりました。景品表示課は、景品表示法に基づいて消費者の正しい商品選択を守ることを職務としていましたので、田中里子さんなど消費者団体の方々とは親しくお付き合いを致しました。

当時景品表示課は、消費者団体や一般消費者からのこの面の苦情を受けて、宅地販売のいんちき広告、土産品などの過大包装、レモンの入っていないレモンジュース、牛の絵の付いた馬肉・魚肉の缶詰、でたらめな安売り広告、過大な懸賞広告などを規制していました。対策としては違反行為に対する排除命令と業界に対する公正競争規約の設定の推進でした。排除命令は1年に70件を超えました。公正競争規約は、不動産・土産品の規約がすでにあり、マーガリン・果汁飲料・牛乳・缶詰・調味料・化粧品などの規約がこの頃に設定され、自動車・家電などの規約設定も進められ、現在では100件を超え、日本の消費財産業は殆ど規約を設定しています。

このような排除命令のための調査や規約設定には、消費者団体の協力を頂くことが不可欠でした。地婦連の田中里子さん、主婦連の高田ゆりさん、中村紀伊さん、消科連の伊藤康江さん、消団連の大野省治さんなどとは毎週のように会っていました。消費者団体の方々とは仲が良く、里子ちゃん、ゆりさん、紀伊ちゃんと呼び合い、私たちもそのように呼んでいました。そこには一種の家庭的な親密さがありました。

田中里さんは、地婦連という大きな全国的婦人団体の事務局長として組織をまとめて意見を出され、他の団体とも仲良く協調的に活動されており、規約設定のための表示連絡会や公聴会でも、的確で聡明な発言をされ、物事をやさしくすべての人に分かり易く話されていました。企業に対しても、物腰は柔らかでしたが、臆することなく直言されていた田中さんの姿が未だに忘れられません。

60年代後半は、消費者運動にとって重要な時期で、68年には消費者保護基本法も制定され、この頃の田中里さんたちの活動はその後の運動の発展の基礎を築いたといえるでしょう。そればかりでなく、この活動は、日本の産業のためにも、次の2点で大きな貢献をしたと思います。第1は、目先の利益に走りがち企業に消費者の利益を中心に経営を考えなければ成功できないということを認識させたことであり、第2は、消費者の正しい商品選択を確保するための公正競争規約の設定が無駄な販売

競争を排除し、良質低廉な商品を提供する地道な努力のためのルールとなり、わが国の産業の合理化を促進し、国際競争力を強化させたということです。田中里子さんが生涯を捧げられた消費者運動のますますの発展をお祈り致します。

弁護士 伊従 寛
(元公正取引委員会 委員)

消費者運動の大先輩一田中里子さん

1970年代のはじめ、チクロ追放や「カラーテレビ買い控え」「化粧品の再販廃止」などの全国的な運動が、消費者五団体等で、活発にとりくまれました。

特に、カラーテレビ、化粧品の運動は、地婦連から提起され、その中心的役割を果たされたのが、当時、地婦連の事務局長をつとめられていた田中里子さんでした。田中さんは、「テレビの二重価格はおかしい」という消費者の声にこたえて、全国調査を行い、表示と実勢価格に28%もの差があることを明らかにし、運動が大きく広がるきっかけをつくりました。

同時に「不買」「ボイコット」ではなく、「買い控え」という、多くの消費者が抵抗なく参加できる表現を提起されたのも、田中さんでした。見事に運動は広がり、ついに、価格引下げにつながりました。

化粧品の場合、S社の1200円のコールドクリームの本価が、わずか55円70銭であることを明らかにし、再販制度でいかに消費者が経済的な被害をこうむっているかを示し、運動にはずみをつけました。

田中さんの運動の進め方は、調査活動でしっかりと裏づけをし、実際の消費生活を通してわかりやすく、様々な制度の持つ不条理さを訴え、消費者はもちろん、役所を大きく動かしました。

私は、当時、日生協の組織部にいましたので、消費者五団体等の場で、田中さんからいろいろ学ぶ機会に恵まれました。ソフトでしかもしんの強い田中さんは、運動の中で、きらきらと輝いておられました。昨年はじめにお会いしたときには、消費者運動への変わらぬ情熱を語られ、お元気そうでしたのに、本当に残念です。長い間のご指導、本当にありがとうございました。そして、さようなら。

岩佐恵美

当時—日本生協連組織部、全国消団連に所属

田中里子さんへの手紙

歴史に残る国連軍縮特別総会での演説

かつて原水爆禁止運動にかかわった人や取材にあたったジャーナリストらが年に一度一堂に会して当時のことを顧みる集まりがあります。「古い昔を語る会」といい、今年（2007年）で11回を数えます。田中さんは当初からの熱心な常連メンバーでした。なのに、今年は、そのお姿を見ることができません。まことに残念であります。

このことからもおわかりのように、婦人運動や消費者運動で知られた田中さんは原水爆禁止運動のリーダーでもありました。1955年に広島で第1回原水爆禁止世界大会が開かれましたが、田中さんはそれに参加した経験をもつ数少ない生存者のお一人でした。

とくにその活躍が注目を浴びたのは1977年以降でした。この年、分裂していた原水爆禁止運動が統一し、原水協、原水禁、市民団体という3組織の統一行動が行われるようになりましたが、団体間の対立が激しく、しばしば統一行動が暗礁に乗り上げました。その時、運動の統一にひたすら奔走した1人が田中さんでした。

市民運動家としてのバランス感覚、調整能力は抜群でした。そのため、請われて3組織共闘の要役、調整役をつとめることが多く、毎年開かれる統一世界大会では、運営委員会の議長や責任者を務められました。そうした役割が最も典型的な形で表れたのは、1978年に開かれた第1回国連軍縮特別総会に日本の平和団体・市民団体が統一した代表団「国連に核兵器完全禁止を要請する日本国民（NGO）代表団」を派遣した時でしょう。田中さんは、その事務局長をつとめ、代表団を代表して総会場で「ちちをかえせ ははをかえせ」で始まる被爆詩人、峠三吉の詩を引用した演説をし、核兵器廃絶を訴えました。

メディアのあり方にも関心をもたれ、平和と協同を推進する上で功績のあったジャーナリストを顕彰する「平和・協同ジャーナリスト基金」が創設された時、代表委員を引き受けられました。基金関係者として心から感謝申し上げます。

岩垂 弘

元新聞記者

平和・協同ジャーナリスト基金代表運営委員

思い出をいっぱいありがとう

里子さん、今年の正月の会でお会いできなかったのが、心配していましたが、「千の風」になったのですか。今どのあたりを飛んでいますか。数年前から「夜の会合出席は亭主に止められてるのよ」と語っておられましたが、今はどこへでも自由に飛べますね。

里さんと知り合ってから約40年になりますね、長いおつきあいをありがとう。いろんな思い出を有難う。

私が経済企画庁の消費者行政課長になったころ、あなたは地婦連事務局長として既に有名人でした。そのころ、奈良県の大きな大会にパネリストとして共に招かれて、新幹線の往復を一緒にしたのが親しい交際のはじまりでしたね。生協連の勝部欣一さん、主婦連の中村紀伊さん、清水鳩子さん、消団連の大野省治さん、そして地婦連の田中里子さんは、私が主催した毎月の会合の常連メンバーでしたね。

里さんが地婦連事務局長を退職したときには、里さんのその後を心配した生協連の勝部さんや主婦連その他の方々が、経企庁の局長をしていた私の部屋に集まり、いろいろ相談したこともありました。結局、里さんが、東京地婦連で、終生自分の信じる道を歩まれたことは、よかったと思います。

私が国民生活センターの理事長になった時にも、里さんには大変喜んでいただき、消費者のために頑張るように励まされました。私の8年間の理事長在職の間、里さんには随分とご支援いただきました。戦後50年の節目に、「消費者運動50年」という証言集を出版しましたが、里さんには20人の証言者の1人として登場していただきました。今では2度と聞くことが出来ない貴重な記録となりました。

長い間、本当にありがとうございました。「千の風になって」私のところにも飛んできてください。

及川 昭伍

独立行政法人国民生活センター 顧問
社団法人全国消費生活相談員協会 会長

(元経済企画庁消費者行政課長、
国民生活局長、元国民生活センター理事長)

田中さん！突然あなたの訃報を知らされ肩の力が抜けていくのが感じられました。限りない寂しさからでしょうか、ただ目の中があつくなってきました。今年はお目にかかっていませんでしたね。暖かくなればお出かけになられるのではと思いつながりながらも待てずに、1月末日に電話を掛けてお元気に話しを交わしたのが最後になりましたね。

地婦連には故加藤節子会長よりお誘い受け参加しました。活動の場が広がり実社会へ繋がる運動は素晴らしいと思いました。そして多くの先輩たちに会い日々が勉強になりました。その中のお一人田中さんは社会的にもその発言や行動力が高く評価されて素敵でした。少女時代は八丁堀(中央区)で暮らしていた話を聞き、とても親密感が持て共通な話題も増えて会話も弾むようになり、また、「どんな事でも相談してね」と言って下さいました。

それから地元の団体が退会する時には、田中さんはじめ2～3の方々から残って「会」を作ってはと進められ仲間と「中央銀座会」を結成し今日にいたります。

その後、何時も私に関わる地婦連関連、都消費者月間の会場にはいらして見守っていて下さいましたね。そして適切な助言をして下さいました。もしも困難な問題が起きた時には、隣の部屋のドアを開ければ田中さんが居て解決して下さいたいですね。

共に過ごした月日を振り返ると、田中さんの活動や運動の原点は「平和」にあるのではないのでしょうか！現時点の社会の有様を見て大切な方を失ったと思います。

多くのことを伝え育んでくださった様々なことを田中さんの知的遺産だと考え、それを力に変え未来に向けて歩み続けなければと思います。ありがとうございます。

大北 恭子

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟会計・研修部長

「PL法制定運動の記録」に田中さんは、最終盤になって急浮上した「血液製剤」問題によって非常に緊迫した状況の中で国会議員の皆さんにPL法の成立を訴えたことを書いておられます。首相の交代など不安定な連立政権のもとで波乱含みの国会審議でしたが、消費者をはじめいろいろな分野の幅広い人々の共同活動が実を結び、PL法を成立させることができましたね。田中さんは、国民生活審議会、産業構造審議会などの専門委員として消費者の意見を反映するために努力するとともにPL法消費者全国連絡会の幹事として活躍されました。主婦連での幹事会や主婦会館・全国婦人会館での「欠陥商品 110 番」、連日の国会要請行動・国会審議の傍聴など田中さんとともに活動したいろいろな場面が思い出されます。

また、田中さんと東京地婦連の皆さんは、北川さん夫妻の訴えに応じて冷凍庫による火災事件の補償を求める裁判への道を開き、最後まで北川さん夫妻を支え、裁判を勝利に導きましたね。判決当日や郡山で開かれた裁判勝訴報告会での田中さんの笑顔を思い出します。

優れた運動感覚と実行力、そしてリーダーシップを発揮して、田中さんは消費者運動の前進に大きな役割を果たしてくださいました。メーカーの管理価格に挑んだカラーテレビ買い控え運動、再販制度との戦いの中から生まれたちふれ化粧品などもその例としてあげることができます。

消費者の権利確立をめざす活動に田中さんとともに取り組み、思いを共有できたことは幸せでした。ありがとうございました。

太田吉泰

元全国消費者団体連絡会事務局長
元PL法消費者全国連絡会事務局長

田中里子さんを称える言葉

私は1957年1月以降消費者運動に従事するなかで、田中里子さんの人柄に触れました。

全国消費者団体連絡会結成直後のカルテル批判の運動では、東京都の似鳥様が消団連会議に出席して下さいました。

1960年春、新聞のカルテル追求の運動で敗退して私は引責、消団連を引きました。

消団連が停滞していたため10年後再度中林会長の意向により事務局に復帰しました。主婦連合会の復帰もできたので、続いて私は全地婦連に「幹事団体になって頂きたい」と御願いしました。田中さんは御配慮されて、全地婦連会長・副会長その他有力な県代表が出席されている会議にお呼び頂き私に説明を求められました。

政治的な課題では組織的に大問題になることが多いので、消団連は「暮らし」の課題中心に取り組んでいく旨を説明しましたが、諸般のことを考慮し幹事団体加入は見送り、具体的テーマで協力し、力を合わせて行きましょう、との結論でした。

その後、化粧品の再販価格やカラーテレビの買い控え運動、独禁法強化改正で意見一致し、全国消費者大会の共同行動への参加となり大きな成果を収めたのです。この時期のわが国の消費者運動は正に歴史の一頂点を形成しています。

その他、田中さんは日生協中林会長とともに平和=原水爆禁止運動の中心的役割を果たされ、その活動・守備範囲は私よりも数倍大きかったと思います。

大衆運動を進める上での政治的判断を求められることの多いポストを田中さんは善くこなして来られました。

運動の先輩であり 善き友

田中里子さん どうも有り難うございました。

大野省治

元全国消費者大会事務局長

田中里子さん、ご逝去の報に接し、心から哀悼のまことを捧げます。久しくご無沙汰しておりますうちに「お別れの会」にての惜別とは残念でなりません。

もう30年も前のことでしょうか、国連の初めての世界軍縮会議に原爆被爆国の代表として、これも初めて核兵器廃絶の為に、あらゆる立場を乗り越えた諸団体の代表数百名の組織化に成功し、核軍縮・平和の尊さを訴えに参りましたね。この運動の実現の為には大きな役割を果たしてくれました。地婦連の中心的活躍があつてこそと思われてなりません。

あらゆる社会の組織も全ての人によってなされていることを『里子さん』あなたは実践してみせてくれました。核兵器禁止そして平和な世界の建設をの思いが結集したからこそ、あのニューヨークの国連の会議場に参加して、その意思を表明できたと思います。そしてその結集した平和の尊さをあなたが代表して演台から訴えてくれました。—当時の外務大臣園田直さんから感謝の意を受ける—このことは、世界の核兵器禁止、軍縮運動に少なくない影響を与えたと思います。このことは今日的に更なる展開をと願って止みません。

どうか田中里子さん、やすらかにやすみ下さい。さようなら。

小川 泰

前職一同盟本部副書記長、政治福祉局長

元衆議院議員

田中さん覚えていらっしゃいますか？

今から30何年前でしょうか？昭和48年の石油ショックの頃だったと思います。東京都が「食料品の物価調査」を各区に依頼したという事で、私は新宿区消費者の会のメンバーの一人として説明会に参加しました。その時、趣旨・調査方法・書類の提出など事細かく説明してくれたのが、田中里子さん、貴女でした。

調査は2年の期間でした。月に何回か生鮮食料品を購入し100グラム当たりの値段をだすのです。都内23区と多摩地区などの値段が一覧表になって東京都から発表され、結果がキチンと出るので、とても遣り甲斐のある調査でしたが、時間・お金・体力が必要でした。

もっと大変だったのは。購入した食料品を食べることでした。幸いにも、当時、我が家は姑も居て6人家族。一緒に調査した友人は2人暮らし、1年で友人はやめてしまいました。でも私は頑張りました。

それは、書類提出に行く度に、田中さんにお目にかかれる事でした。50人近い物価調査員に、田中さんはゆっくりと優しく話しかけてくれました。うわさによれば、田中さんのいろいろと活躍をなさり、お偉い方との事でしたが、ちっともそんな素振りはありませんでした。

その後、私は地婦連の都民クラブに入会しました。憧れていた田中さんと一緒に「原水爆禁止運動」「トマホーク入港反対運動」そして「日比谷公会堂からの平和行進」など、いろいろの活動に参加し、その度に田中さんの知識の深さと運動に対する情熱に感心したものです。

最近、田中さんのお具合の悪い話は伺っておりましたが、いつものように、地婦連の会合にいらっしゃるのので、お元気そうと思っておりましたが、もうお目にかかれないのかと思うと胸がいっぱいです。

長い間のご指導、有難うございました。

荻生万寿子

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 政治部長

田中里子さんへ

もう40年以上も前のことになりました。初めて田中里子さんを知ったときとても新鮮な印象を受け、その場面が忘れられません。なにか業界とやりとりのある集会でした。切りそろえられた髪の若々しい女性がすくと立ち上がり、理路整然と発言されました。その人が田中里子さんでした。当時の婦人団体のリーダーは山高しげりさん、春野鶴子さん、三巻秋子さんなどでしたから、田中里子さんのような方もいらっしゃるのだと強く感じた覚えがあります。

日本消費者協会は歴史の浅い組織でしたから、政府の委員会などでは他団体の先輩から教えて頂くことが多くありました。田中里さんはいろいろな面で私のお手本となる先生でした。未熟な私に対しても対等に仲間としてお付き合いくださいました。

思い出深いのは、PL法の早期制定を求める運動で、数年間の勉強会、全国連絡会の結成、全国展開の制定運動、国会要請行動などなどでご一緒したことです。PL法の国会審議では清水鳩子さんとともに参考人として発言してくださいました。初めてお目にかかったときのように、毅然と立って暖かいながらも厳しく論理的に消費者にとって安全はなによりも重要と説いてくださいました。PL法制定後も製品安全の動きを見張るPLオンブズ会議を作りご一緒に活動させて頂きました。

この数年大手企業の製品でも死亡を含めた大きな事故が続いて起こっています。企業の体質や国の施策にも問題がまだまだあることが露見しました。PL法制定に続いて第2の転換期といえるでしょう。消費者の発言を強めなければならない時期です。風となり、草となり、星となり、太陽となって私たちを励ましてください田中里子さん。

長見 萬里野

(財) 日本消費者協会参与

私が田中里子さんに初めてお会いしたのは、1978年のSSDI（国連軍縮特別総会）日本市民団体代表者会議でした。当時、日本生協連の中林貞男会長や全国地婦連の大友よふ会長などが平和運動の統一のために活動されていた時期でした。第1回国連軍縮総会に市民団体の代表も参加するというので、その会議でお会いしたのが最初だと記憶しています。田中さんは市民団体の代表として国連総会会場で発言もされました。その颯爽としたお姿をいまでも思い出します。

その後、全国消団連の場やPL法制定連絡会、PLオンブズ会議等の活動を通じ、さまざまなご指導をいただきました。「消費者と女性のために」という物事の考え方の機軸が常に明確であり、そのことが田中さんの消費者運動に対する粘り強さにもつながっていたのだと感じています。新聞の再販問題などでは、再販を指示する新聞労働組合の代表にたいし消費者の立場から再販制度の問題点をさとすように説いていました。PL問題では冷凍庫発火裁判を粘りづよく支援されていました。

私が全国消団連事務局で働いていた時には、消費者団体としての政策判断などについていろいろご相談をさせていただきました。「まずは、田中さんのご意見を聞いてから」と田中さんの物事に対する判断の安定感からか、気軽にご相談させていただきました。お忙しい中でも、時間をさいて相談に乗っていただきました。物事の判断がわかりづらくなった今の様な時代にこそ、田中さんのような方が必要だと痛感しています。

私が消団連事務局から協同組合関係のシンガポール事務所に転勤する時には、わざわざ餞別を届けに全国消団連の事務所までお見えになり「新たな場で活躍され、また消費者運動の場にもどってきてくださいね」と今でも心に残る言葉をかけていただきました。わずかな時間でしたが、田中さんと一緒に活動を共に出来たことを感謝しています。

心より、ご冥福をお祈りいたします。

小澤重久
元全国消費団連事務局次長

田中里子様

窓外の眼下を流れる川に桜色の帯がたゆたう様を見やりながら、今春も桜の季節の終焉を覚えた日に、田中様の訃報に接しました。そして忽ち、この正月田中様より賜った年賀のお言葉に胸騒ぎを覚えたことが甦り、心に掛かりながら、おとなふこともなく過ごしてしまったことに深く後悔の念を禁じ得ませんでした。

田中様との出会いは当時、全地婦連事務局次長であられた河田日出子様を介してでした

疾病に罹患することにより生ずる生活問題に悩める方々の福祉に携わりたいと進んだ大学時代に、「地域社会が人を育てる」「主婦こそが地域社会の原動力」ということに気付いた私を、事務局員として受け入れて下さいました。

そして、社会人としての人間形成の時期を7年間、初代会長山高しげり先生を始め全国のお歴々に仕えるには余りにも未熟な私を、常に寛容な御心で教え導いて下さったお陰で今日、地域社会の中で保健医療分野のソーシャルワーカーとして、本懐に近づきつつある私が在ると言うことを自覚し、心から感謝して参りました。

福祉分野にまで市場原理が導入された現代社会の中で、私はこの六年間を費やし成年後見人という新たな機能を備えて、この春から更なる活動分野の拡大に取りかかります。

田中様のご生前に感謝の気持ちをお伝えできなかったことのお詫びに代えて、これからの日々をしっかりと生き抜く所存でございます。

どうぞこれからはより広い視界から地球の人々をお見守り下さいますように。

合掌

菓子 初音

社団法人板橋区医師会医療連携センター課長

医療ソーシャルワーカー・社会福祉士

また一人、同じ時代を生きてきた仲間が逝ってしまった。里子さんの訃報は仲間を失った寂しさをしみじみと感じさせられました。

出席のはずの会合にお見えにならないことが度重なり、気にかかっていたので、川島会長にお目にかかった折りに「ご様子を伺ってみてください」とお願いしたのが亡くなられた二日前、3月26日のことでした。

里子さんと私は、事情こそ違いますが同じような経験をしています。それは女性団体の事務局長という職にあったこと、そしてその職を心ならずも辞職しなければならなかったという経験です。このことが、私たち二人の心に通い合うものを作ったと思っています。

里子さんがまだ全地婦連にいらっしゃった昭和45年頃からの、彼女の仕事ぶりは目を見張るものがありました。それまでは社会教育団体とばかり思っていた全地婦連が、カラーテレビ買い控え運動に乗り出してきたのです。100円化粧品としての「ちふれ」の製造販売運動、これには成分表示と原価公表がありました。そして全地婦連会館の建設・・・。

全国に根を張る全地婦連の組織に乗ってのスケールの大きい運動でした。これらの運動の展開を見ながら、私はこの着想は里子さんだけものではなく、ブレインがいるはずだと思っていました。それがどなたなのか一度伺いたいと思っていたのに果たされなくなってしまったことが残念です。

「あなた、早く仕事から手を引きなさいよ。責任がなくなるって気楽なものよ」と。と地婦連の事務局長から常任参与に替わられたころ、里子さんは人をつかまえてはよく言うておられました。

そして今度は、川の向うから、例の笑顔で「早くこっちにいらっしゃいよ。緑も花も水もきれいで、いいところよ」と読んでいるような気がするのです。

同世代をともに生きた友として

勝部三枝子
消費科学センター
消費科学連合会

田中里子さんを偲んで

田中里子さんがご逝去されたとの悲報に接し、本当に驚き残念でしかたありません。

ご主人様のご悲嘆いかばかりかとお察し申し上げます。また、田中さんという大きな柱を失い、婦人運動、消費者運動でご活躍されているみなさまのお悲しみも大きなものがあると思います。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

顧みますと、弊社は田中里子さんから長い間に亘り幾多のご教導とご支援をいただいていたまいりました。

田中さんは、石油危機以降、省資源・省エネルギーの視点からエネルギー問題に早くから取り組まれるとともに、数多くの公職に就かれ、電気事業審議会委員、総合エネルギー調査会委員としてご活躍された際には、弊社はいくつものご教示をいただきました。

とりわけ、石油危機時に導入いたしました家庭用の省エネルギー型料金制度は、今日の環境問題の高まりの中で、一層の重みを増しており、まさに田中さんの卓見が示されたものと申し上げて過言ではないと思います。

その後も、消費者の代表として私ども電気事業者に、時には厳しく、しかし誠に的確かつ貴重なご意見、ご教示を賜りましたことは深謝に堪えず、忘れることができません。

田中さんは、気さくで優しく語られ、誰からも愛され信頼されるお人柄でした。明るくあたたかいお話がいただけなくなったことは本当に寂しく残念でなりません。

田中さんからいただいた多くのお教えを深く心に刻み、弊社として果たすべき社会的責任について全社を挙げて取り組んでいく所存でございます。

田中さん長い間ありがとうございました。心からの御礼と哀悼の意を捧げます。

勝俣 恒久

東京電力株式会社 取締役社長

驚いた後はしみじみ悲しくなりました。

田中里子先輩からは、生き方のうえで、「いつも柔和であること、諦めないこと、壁が厚くてもどこかから挑んでいく姿勢」を教えられました。

いろんな消費者運動をご一緒しましたが、なんといっても平和のための活動が1番印象深く、先輩がなくなった今、残されたものとしての責任を感じています。風船爆弾作業の青春時代のお話、ニューヨークの国連総会で峠三吉の詩を読まれた時の颯爽としたスタイル、福竜丸、桜を囲んでの平和の集いでの楽しかったおしゃべりなどなど、思い出します。

今また時代を誤らせようとする勢力が台頭し始めている時、里子先輩に去られたことは本当に残念です。どうぞ静かにお眠りくださいと申し上げる訳には行きません。残された者たちが頑張れますよう、天国からあの笑顔で見守り、ご叱声くださいますよう、お願いいたします。

加藤真代
軍縮市民の会会員

『田中里子さんへの手紙』

田中里子さん、長い間のご活躍ほんとうにおつかれさまでした。どうぞ安らかにやすみください。

ごいっしょに運動したさまざまな場面を思い出しております。

「第五福竜丸・エンジンお帰りなさい」の運動では、和歌山の市民運動と東京の市民運動が手をつなぎ、大きなことを成し遂げることができました。その中心に田中里子さんがいらしたことを忘れることはできません。東京地婦連は、「緑の銀行」運動の最後の一本の植樹の場所として、第五福竜丸展示館前を選ばれました。女性運動、消費者運動の根底に平和、反核のあつい思いがあつてのこと、深く胸をつかれたことを忘れません。

サッカーくじ導入反対の運動では、東京地婦連がまさに東京全体の運動をリードしてくださいました。「サッカーくじに関わるすべての国会質疑を傍聴しました」とおっしゃった地婦連のメンバーのご発言に、とてもかなわないと頭の下がる思いがしたのはついきのうのこのことです。

「戦後すぐの混乱期に、町の『浄化』や退廃文化、ギャンブルから子どもを守ろうと立ち上がったのも地域婦人会の原点、だから、サッカーくじは許せない」とうかがいました。東京の地婦連の歴史の重みを感じたのは私だけではないと思います。

東京での会合や街頭での宣伝行動に、高齢をおしてこともなげに参加しておいで田中里子さんのお住まいが埼玉、志木と知ったときはほんとうに驚きでした。どんな短い会合でも一日がかりでしたでしょう。

ほんとうに、ほんとうにありがとうございました。今、女性や消費者の視点で都政や国政にももの申していかなければならないことは山のようにあります。そして、何よりも憲法を守っていかななくては。田中さんどうぞ私たちを見守り、はげましつづけてください。

上 伸子

新日本婦人の会東京都本部 会長

1983年春から1年半、全地婦連でアルバイトさせていただき、最初から最後まで本当にお世話になりました。その頃田中さんは、審議会の委員や平和運動、女性団体の集まりなどに多忙を極めていらっしゃいました。そんな中でも何か困ったことがあると、「ん～ どしたの?」「だあいじょうぶよ～」と応えてくださった笑顔が忘れられません。その後もお会いするごとに、「ん!どしてる?がんばってる?」と励まされ、背筋が伸びる思いでした。多士齊々の地婦連にあって、田中さんはその人の強みを引き出す達人であり、諸事業を運営される手腕は起業家のようにでした。その後、私にとってちょっとだけ先輩の加藤さんが紆余曲折を経て全地婦連事務局長に就任された折には、田中さんの慧眼と運動の後継者づくりへの強いご意志を感じました。芽吹く花木をゆらす春の風に心からありがとうございますを申します。

亀田篤子

田中里子さんは、さわやかな響き渡る声と、嚙んで含めるような説得力ある口調で人をひきつけるスピーチをなさる。遠くから拝聴しいつも感心させられていた。その田中さんとお近くで一緒に仕事をさせていただいたのは、1977年のNGO被爆問題シンポジウムをはさむ3年間だった。

全国地域婦人団体連絡協議会からは、国際シンポジウム日本準備委員会の結成よびかけ人に会長が加わったが、田中さんは日本準備委員会の広報担当幹事を務めた。

日本準備委員会はシンポジウムの科学的客観性を保証し政治的その他のバイアスを避けるために個人を基礎に構成されたが、その準備と組織を積極的にサポートする各界各分野のNGOによるNGO被爆問題シンポジウム推進団体連絡会議も作られた。

私は事務局長として、シンポジウムの科学的内容を準備、作り上げていくことに集中していたが、同時に、シンポジウムを国民的支持のもとに成功させていくためには、準備の進行に応じた各節目々々で諸団体の理解と協力を得ながら進めていかなければならない。

日本準備委員会や推進団体会議では田中さんが諸会議への出席がもっともよく、流れをいちばん正確にフォローされていたように思う。

各団体の主張は多様でそれぞれ個性や性格もあり、その調整は案外手間取り、なかなか前に踏み出せず、やきもきさせられたこともあった。このようなとき、田中さんはたぐい稀な才能を発揮され、上手にまとめて下さり、何度も助けられた。

1977年のシンポジウムは関係者の努力と協力で大きな成功を収めた。

翌1978年の国連軍縮特別総会では、国連に核兵器完全禁止を要請する日本国民(NGO)代表団502名に加わり代表団事務局長をされた田中里子さんは、特別総会の6月12日“NGOデー”で、日本のNGOを代表し被爆問題国際シンポジウムの成果を踏まえたすばらしい演説をされた。

川崎昭一郎

当時 (1977)

千葉大学助教授

NGO被爆問題シンポジウム事務局長

現在

財団法人第五福竜丸平和協会会長

千葉大学名誉教授

田中里子さん、もう天国に着かれ、山高しげり先生と再会されましたか。ご逝去の報せは～ああ、この世で深くかかわらせて頂いた里子さんも、とうとう逝かれてしまったか～という淋しい思いでした。

貴女さまに初めてお会いしたのは昭和35年、私が20歳の春でした。

当時私は全国社会福祉協議会の職員でした。山高しげり先生から地婦連事務局で働かないかとお声がかかり、貴女さまが私を見に全社協にお出でになり、～あの娘ならいい～とおめがねにかなっての就職でした。あなたさまは私にとって優しい姉のような方でした。

忘れられないのは、私が妊娠した時、仕事を辞めないで済むように事務局のある東京婦人児童館に夫共々住むようにとご配慮頂いたことです。息子が生まれ、息子をカゴに入れて事務所の窓辺に置きながら仕事する事も認めて下さいました。又、アメリカに行かれたおみやげに、ブルーのかわいいおくるみを買ってきて下さいましたよね。そのお洋服は今でも目に浮かびます。息子が事務局でチョロチョロするようになって、～いちろうちゃん、いちろうちゃん～と可愛がって頂きました。

婦人児童館には息子が4歳になるまでお世話になり、その後、所沢に引っ越ししました。私は、どうかすると、先走りそうになる性格がありまして、そういう時の私に～一晩寝てから考えるの、ゆっくり、ゆっくりね～と諭して下さいました。大恩ある里子さんでしたのに、何のお返しもできずに逝かれてしまいました。10数年前にご病気になられた事も全く知らず、お見舞いにも行かれませんでした。

里子さん、今でも貴女さまと仕事をしている夢をよく見る私です。地婦連でのことは、一生の財産になっている私です。どうか、恩知らずの私を許して下さい。そして、千の風になって、たまには私のところにも飛んできて下さい。貴女さまのことは生涯忘れません。

2007年4月10日

婦人文芸同人・五行歌同人・元全地婦連事務局次長

河田日出子

田中里子さん、

戦後の女性の活動をしっかりと支えて、推進してこられた方として、ずっと尊敬して参りましただけに、もうこちらの世界にはおられない人と思うと、さみしさがつります。

戦後、「婦人問題」の解決、女性の地位向上を目標に出発した女性の活動は、それを核におきつつ、男女共同参画社会実現の推進へと発展してきています。それとともに、活動も多様化してきています。こうしたなかで、地域、そして日常生活に根ざし、そこから日本社会全体の、そして国際的な活動へと結びつけていく地婦連の活動は、より重要性をましてきています。こうした地婦連の活動は、会員と事務局との協働によって行われており、田中さんは事務局長として大きな役割を果たしてこられました。事務局長を退かれた後も、この協働体制はひきつがれ、地婦連の活動の推進基盤となっているとみています。これは、田中さんの残された大きな業績であり、貴重なことです。

また、田中さんは地婦連の活動を、その団体内部だけの活動に限定しまうことなく、他の女性団体や消費者団体等との連携を深め、広げる役割を果たされました。今、活動が多様化するなかで、それぞれの団体や機関が特徴を持ちつつ、どのように連携、協力し、協働できる関係をつくるかが、重要な課題となっています。戦後の女性運動を担った方たちは、それを実際になさってこられました。そのお一人が田中さんでした。その関係はつよく、それが社会的な力になっています。

教えていただけることが多かったのに、こちらの忙しさにかまけてその機会をもてなかったことを悔しく思っております。

すばらしい生き方をされた田中里子さん、心からご冥福をお祈り申し上げます。

神田 道子

独立行政法人国立女性教育会館 理事長

「安らかな旅路へ」

田中里子先生の訃報をお聞きし、私共は何物にも代え難い大きな宝物を失った悲しみと寂しさに心落ち着かず、脳裏を思い出が駆け巡っています。

里子先生と私共は、皆さんご存知のとおり三洋電機製冷凍庫発火原因による火災事故裁判へ繋がる、暗中模索の中で見つけた読売新聞掲載の小さなイラスト付きコラムから始まりました。

早速図書館で住所を調べ、火災前後の生活環境・現場検証の様子・内容・その後の三洋電機との相対交渉状況等有りのままに記し、出火原因となった冷凍庫の写真を添付、配達証明付き郵便で差出しました。

二日後のお昼、か細い声でしたが温かみを感じるお電話を頂きました。

それは、藁にも縋る念いの中、天の救いを得られたような気分で、嬉しさのあまり私は大きな声を出したほどでした。

そして中村雅人先生をご紹介下され、解決への足掛かりを得まして一年経過、訴訟～24回の法廷、三洋電機側が私共を放火犯と決めつける係争に終始しましたが、里子先生を中心に東京地婦連、水野英子現副会長様全法廷傍聴、小池吉子様グループ他の傍聴支援を頂き4年半、火災から8年余の歳月を費やし勝訴を勝ち取ることができました。

今、私共は里子先生との出会いから、欠陥商品110番参加、PLオンブズ会議勉強会・報告会、各種行事・支援裁判傍聴等ご一緒させて頂いた様子が走馬灯のように蘇ります。

中でも私共が地元郡山市で開催しました勝訴報告会、東京からご多忙の中、里子先生・水野英子副会長・中村雅人弁護士・鈴木将成技術鑑定士・太田吉泰前消団連事務局長のご出席を賜り、お店のお客様支援者に分かりやすくお話し下さいましたのが一番の思い出として忘れることは出来ません。

里子先生からは、常に見ず知らずの私共被害者の手紙からスタートした「出会い」に、感謝の言葉を頂いておりました。

出会いからもう14年余の歳月、優しい微笑で変わらぬお付き合いをさせて頂きましたことに、母のような親しみさえ感じておりました。

その一方、私共の一番大切にしていた心の宝物を、彼の地へお土産としてお持ちになられてしまったような空虚さも味わっています。

でも、この地に残された数々の実績は消費者活動の礎として今後も語り継がれて行くと思います。

1月14日、お電話を頂戴し明治座でお会いしましょうと言われたお約束は、2月5日、休憩時間にいつもの笑顔でお話しさせていただきましたが、3月13日、体調が気になり、如何ですかとメールを差し上げ、今年も新木場お花見でお会いしようと思いましたが実現せず、一方通行の最後の便りになってしまいました。

生物は宇宙の大海に在り各々の心の中にも存在するもの。その繋がり巡り巡りて又戻るものと教えられました。

今、里子先生は彼の地への新たな旅立ちをされたと認識、長年のご活躍ご苦労様、お疲れさま、ごゆっくりお休み下さいとお伝えできることを私共は誇りに思っております。

里子先生の素晴らしさに心から合掌、感謝の心を捧げます。

「人は皆 出会いが有りて築く糧 心慈しむ 花となりけり」 喜多川

北川公造 丈子

平和憲法のもと、くらしと平和に生きた田中里子姉を悼む

今日の全国地域婦人団体連絡協議会が組織されたのが1952年7月9日、田中里子さんにおめにかかったのは、中国・米英はじめ全世界を敵に回して戦い、大切な国土を廃墟にした敗戦国・日本で、ようやく女性が婦人参政権を得て、7年後の頃でした。私は、婦人参政権運動のリーダーであった故市川房枝先生のもとで、今に至る有権者同盟の政治啓発の学習と実践を繰り返す日々、田中里子さんは、市川先生の婦選運動の最高のパートナーであった故山高しげり先生の傍らに居られました。

新しい平和憲法のもと、田中さんの全地婦連と、私の属する日本婦人有権者同盟の出会いは、復興途上の日本の婦人運動に大きな実りをもたらしました。まず、平等・福祉・政治浄化・平和を目指す、戦前の婦人参政権獲得運動の4目標達成を運動の基軸として、全地婦連は「福祉と平和」、同盟は、「男女平等の政治と選挙への参加、政治浄化を目指す議会制民主政治確立」を主題とし、ともに相呼応したのです。山高しげり先生は日本の不戦と平和を説き、原水爆禁止運動と母性保護に集中され、同盟は、政治と選挙の革正と婦人有権者の政治教育・政府政党と有権者に対する真の「政治啓発と運動」に踏み込んだのです。

田中さんは、山高先生の世界平和への希いを引き継ぎ、事務局長として婦人団体の先頭に立って原水禁運動を率い、同盟ほか多くの婦人団体の「要」となられました。それぞれ山高・市川両先輩のもとに学び、その志と運動の方法論を徹底的に教示され、共に「偉大な運動家の弟子」として、田中さんと私は互いに鍛え合い、手を握り合う運命だったのです。田中さんは私より一年早く社会参加され、私の姉とも思い、知恵と決断力を兼ね備えられた人であり、大切な「同志」でした。

田中さん！長いこと有難うございました。苦しかったでしょう。今は静かに、日本の行方を見守りながら、お休み下さい。貴方の分まで、不戦と平和のために働きます。

紀平悌子

日本婦人有権者同盟代表

最後のファクシミリ

風はとっても冷たいのですが、窓から見える海も空も今日は真っ青です。
もうすっかり、光の春です。

3月13日、第五福竜丸展示館の屋根が見える辰巳の印刷所の校正室から、私は田中里子さんへ最後の手紙をファクスで送った。『婦人時報』の初校ゲラのコピーに添えて……。体調が思わしくないことを感じてはいたが、毎月送っていたものを欠かしたくはなかった。

お名前だけはよく知っていた田中里さんと初めて会ったのは、すでに還暦を迎えられた頃のこと、印刷所の紹介で『婦人時報』の編集のお手伝いをするようになったのがきっかけだった。

田中さんの原稿は法や制度に関する固いものでも平易な文章でつづられ、訴えたいことをきっちり伝えていた。PL法で初めて勝訴した冷凍庫裁判の傍聴記などは秀逸で、かなり遅い時間にファクスで流れてくる原稿を心待ちにしていたものだ。『婦人時報』はナンバーワンの書き手も失った。

「工藤さんとは、不思議な縁で結ばれていたのね」と田中さんが言ったように、第五福竜丸の、特にエンジンとのかかわりもあった。

96年、福竜丸展示館の開館記念行事に私の亡夫がつくったドキュメンタリー『廃船』を上映することになり、80分のカセットを見た田中さんは、「あそこに（記者だった）夫が写っていたのよ」と、一瞬、少女のような貌（かお）を見せた。

海に沈む前のエンジンの解体シーンを私の夫は記録し、田中さんは海底から引き揚げられたエンジンを東京に運び、私はその『都民運動の記録』を水越雅子さんとまとめた。

さくら色の風に乗っていった田中里子さん。八重紅大島桜も年ごとに太く、大きく育っていくことでしょう。どうぞいつまでも、特等席から見守っててください。

工藤 爽子

(『婦人時報』編集担当)

田中里子さんの手紙

拝啓、田中里子さん。親しみを込めて里子さんと呼ばせてください。

里子さん、覚えていらっしゃるね。昭和53年6月、画期的な公正競争規約が認定されたことを。私は、この規約を世に出した最大の功労者は里子さんだと思っています。

なぜなら、この規約が世に出る最大の言動力を、昭和48年春、ほかならぬ里子さん率いる全国地婦連が実施した家電製品の表示調査だったからです。この調査結果は、マスコミに公表され大きな反響を呼びましたね。これが大きな力となって、当初規約作成には消極的であった通産省も1週間後には規約の作成に全面的に協力することを約束してくれました。主務官庁の協力が得られたのは、この時が最初でした。

3年後原案が提出され、消費者と業界が意見交換をする表示連絡会開催の運びとなりました。里さんは自らこの会に出席されました。足かけ2年に渡って10数回開催されたこの会に熱心に出席され、消費者にとって分かりやすくなる表示基準を幾つも提案していただきましたね。里さんの提案が規約に盛り込まれた表示基準は山ほどありますが、ここでは、その中から初ケースとなった表示基準を一つ紹介してみましよう。

それは、テレビなど5品目に必要表示事項として製造年表示が義務とされたことです。製品本体に「○年前期製造あるいは○年後期製造」と日本語で表示されることになり、家電量販店などに展示されているテレビが新型か旧型かの判別がしやすくなり、消費者の購入の参考になることになりましたね。とても良い規約ができあがりましたね。

私の尊敬する最高の女性里子さん、「千の風にのって」いま何処にいらっしゃるのでしょうか。「皆さんここよ。」とお声をおかけになりながら、新しい世界で新しい目標に挑戦しておられることでしょうね。

工藤 久

元公正取引委員会取引部景品表示指導課課長補佐（公正競争規約担当）

前（社）全国公正取引協議会連合会理事

田中里子様

異常気象、地球異変が日常の挨拶で交わされ、ことしの開花は例年より早いのかなどと世間がまどわされていた平成19年弥生も末の8日、あなたは旅立ちを決断されました。

まさか腐敗し品格なき政治、マネーゲームで勝者を決める経済の流れ、モラルの低下した世相に嫌気を覚えたからではないでしょうね。

あなたが婦人運動、消費者運動で残された実績は「カラーテレビの二重価格表示の実態調査」と「買い控え運動」「チクロ追放運動」「ちふれ」「ガスを使わないヘアスプレー」の実現等々あります。また「原水爆禁止運動」、「北方領土返還運動」にも尽力されました。

私とご一緒されたのは、昭和40年代～50年代の一次、二次石油ショック時の「電気・ガス料金の不当な値上げを是正する運動」「円高差益還元」交通事業者を利用者の諸要求を実現してもらった懇談会等々。

そして平成3年から昨年まで社団法人くらしのサーチセンターの紅一点の理事としてご苦勞をいただきました。

あなたは行政や企業の人たちと対話されるとき、終始微笑を絶やさず、相手の立場を尊重し、傷つけることのないよう言葉を選び、慎重に語りかけ、しかし主張すべきは主張する姿勢を貫かれました。

その都度、私はあなたの人柄、人格形成の原点はあなたの母校の創設者下田歌子女史の古き良き時代の思想文化を戦後民主主義の中に取り捨選択し、活かしているのかと慮かったものでした。

田中さん あなたのようなバランス感覚と気品をもった言動はこれからの社会にこそ求められるのです。しかしながらあなたも病魔に勝てず旅立つにあたってさぞ残念だったことでしょう。

残された後輩としてはあなたの足跡、実績そして人柄を教訓とし引き継ぎ、乗り越えていかねばと存じます。

安らかにお休みください。

合掌！

工藤 芳郎

社団法人くらしのサーチセンター

副会長・専務理事

市川房枝先生を年来敬愛申し上げてきた小生は、先生の創設になる婦人有権者同盟の集会にはほとんど毎回おじゃまして来た。

その会合に必ずといってよい程、身をはこんでいられたのが田中里子さんでいらした。ほぼ同年代のこととて、よくもひんぱんにお出ましいただくな、と実に感心申し上げていた。

思えば日本の将来について同憂の士であられたのだろう。戦後60余年を経て、いまの日本の進みつつある途には、結構あやうげなものが覚えられてならぬからである。

ただ惜しまれてならぬのは、お互いに会釈するばかりで、中味のあることを話し合う折をほとんど持たなかったことである。あの方の表情には、なにか小生の馴れ狎れしさを許さぬものがあって、談論風発することなしで過ぎてしまった。

もっと小生のほうからお話を求めてしかるべきであったのに、といくら後悔しても覆人は盆にかえらない。ほんとうに残念きわまりないことをなしてしまった。ただ小生も77才、老耄の身を思うと、あまり遠くない将来に、彼地でお目にかかれることもあろう。

そのときには胸きんを開いて、さまざまに御物語をさせていただこうと、今からそう願わせていたい。

合掌

英国エジンバラ大学特任客員教授
元参議院議員（当時社会党）

国弘正雄

田中さん、お世話になりました。

4月2日の定例会で田中さんが逝者になられたことを聞き、私は耳を疑い胸がいっぱいになりました。

思えば、20数年前、嵐山にある国立婦人教育会館（現・国立女性教育会館）で、全地婦連リーダー研修会が開催された時です。研修会の入り口が人で前に進まず、何事が起きたかと走って行くと、田中さんのサインを求める参加者が行列をなしておりました。何もわからない私はその時、田中さんは偉大な方と知りました。

サインの順番を待ち、研修会資料の冊子へ『世界に平和を』『田中里子』とサインして下さいました。その時、「黒崎さん、あなたに一言、東京地婦連で活躍を・・・約束よ」とおっしゃいました。

その後、数年前から健康を害され、築地のがんセンターで何回でしょうかお会いし元気な声で「今日は点滴よ」「今度は美容院なの」と主人の病気を労わりながら、ニコニコと握手して下さいましたネ。

田中さんとの約束の言葉を思い出しながら、東京地婦連の一員として、一步ずつあゆんで行きたいと思っておりますので、見守って下さい。

心からご冥福をお祈りします。

黒崎照子

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 消費経済部副部長

今から15年前くらい前でしょうか、駅のホームでうろうろしている私に田中さんが「あなたも国会に行くの？ご苦労様。」と声をかけてくださいました。この時、お供をしていろいろお話をしたのが、個人的なおつきあいのきっかけでした。私にとっては、消費者運動の大先輩なのに、いつも気さくに接して頂いたことに感謝しております。

製造物責任法が参議院本会議で可決された日、ごいっしょに傍聴して夕闇せまる参議院の裏庭で一同興奮して記念写真をとったこと、冷凍庫の発火事故で事項寸前の被害者北川さんに救いの手を差し伸べられ、一緒に長い裁判を応援して勝訴したことなどが特によい思い出として残っております。

長い間消費者運動のリーダーとして私たちを導いてくださりありがとうございました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

小池吉子

日本消費生活専門相談員協議会 会長

大東亜戦争も終わりに近づく頃、私は老母と乳呑子を抱え、疎開先の福井で空襲にあい、そこで勤労働員で工場に働きに行かされている子が、雪の中をはだして母親のかっぱう前掛けをつけて、急ぎ足で行くのを見て、多分子たち等のゴム長靴などの配給が横流しされているのではと勘が走り、その足で福井勤労働員署にかけつけて「工場の様子を調べさせてほしい」と願い出たら、三ヵ月後に「福井勤労働研究会」という所から手書きのハンコのないお墨付きが来て、それをもってその工場へ行って、横流しの品々を子たちに取り戻したことから、私はその後、赤ん坊を背負い防空頭巾を被って工場を巡回したものです—

そんな時、私を勇気づけて下さったのは全国地域婦人団体連絡協議会の当時会長の山高しげり先生で、私に「子を持って知る子の恩」というご自筆の色紙のお言葉でした。故里子さんを知り、山高先生は未亡人会や生活学校運動など、手広い民間運動で外にご出張の多い中、里子さんはにこにこ笑顔を絶やさず、先生に代わり適確な指導をされました。とりわけ地婦連の調査はどこよりも正確で役立つというので好評でした。彼女のまとめ方それを実践としてどう活かすかなどのご意見や指導ぶりには私など教えられることが多く、東京都あたりも僅かな補助金で、ずい分都民に役立つ地道な子どもや老人の福祉事業などに役立てられたのではないかと思います。

私なども僅かながら地婦連の事業のお手伝いには、わがことの様にはっきりものいう失礼な人間なのですが、何時も本心を受け止めていただき、後継者の方々も次々と共に育っていかれるのを、私など羨ましく思い、見習いたいと思っていました。

今頃は、黄泉の国で山高先生、小柴さん、幾久栄さんはじめ、地方の会長様方と賑々しいミーティングをされているのでは。私も94歳になり、いまにお仲間入りが出来るのを楽しみにしています。

近藤とし子

社団法人栄養改善普及会 会長

里子様の紹介で友人となりました工藤爽子さまからの訃報を知り、本当に驚きました。

本年三月上旬に、ピアノコンサートへお誘いしたいと思い、御宅へ電話をしました時、外出中とのことなので後日連絡を思いながら、のびのびになり、永遠のお別れになるとは思っておりませんでした。

顧みますと、昭和24年に私が都庁へ就職しました頃、上司の清水寛先生（故人）の所へ、里子様がお見えになっており、紹介されて以来、55年以上のお付き合いをさせて頂きまして、有り難うございました。

里子さまは、社会的に活躍されていて、テレビでも分かりやすい語り口でした。私とは私的で湯ヶ島の旅や大阪の万博にも泊りがけのご一緒に、その他、お芝居やお食事等でお会いしておりました。

お互いに仕事をもっていましたので、頻繁ではないのですが、長いお付き合いでは、いつも冷静におだやかに接して下さり、友人と言うより、私は少し年下なので、お姉さまのような存在で尊敬しておりました。

もっと長生きして欲しいと思っておりましたので、残念でございます。寂しさが一杯でございます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。さようなら。

斉藤みき
元東京都職員

日青協（日本青年団協議会）の事務局に就職して、関係団体の方で一番初めに名前を覚えたのは「里子さん」でした。日青協は20代30代の若い職員ばかりだったので「里子さん」と呼ばれているその人もきっと同じ世代の人だろうと想像しましたが、実は私たちの母親世代の方だと知り、若い世代にも、同じ世代にも、年上の人にも、様々な分野の人からも、誰からも「里子さん」と親しみと尊敬を持って呼ばれる存在に驚き憧れたものでした。

婦人会と青年団は言わば母と娘息子の関係と言われ、里さんはいつも青年団に配慮と励ましを続けてくれた方でした。お会いすると必ず、青年団はどう？ みんな元気にやってる？ ○○ちゃんどうしてる？ と声をかけて下さったものです。平和運動、消費者運動、女性運動等々、市民運動の会議がいろいろ紛糾するときも、里さんの態度が激情したり、興奮したりという場面を私は見たことがありません。あの淡々とした物腰と笑顔の裏側では、全体としてどう運動を進めるか、意見の違いがあっても何を共通項に進めるかという、この一番困難なことをいつも見据えていらっしやったように思います。

ご自身の信念と琴線に触れた課題に出会うと、あの華奢な体つきからは想像しがたいエネルギーと求心力を発揮して市民運動を作り出されました。その感性や、感覚の鋭さに敬服するばかりです。この数年は、第五福竜丸展示館に関連した活動で一緒にさせていただきました。病でずいぶん痩せられましたが、凜とした里さんにお会いするたびに、自分の正義感に正直に生きることを学ばせていただいたように思います。

いつもどこかで、私たちを見守っていてくださることを祈りつつ。

坂野 直子

(財) 日本青年館公益事業部 結婚相談所

(元日本青年団協議会事務局)

千の風になった田中里子さんへ

わたしが初めて田中さんとお会いしたのは、1974年春、当時韓国の朴政権に拉致・誘拐された、金大中を救う、渋谷駅前での街頭宣伝でした。今から33年前のことです。昔から、地域の婦人会と青年団は親子の関係と言われ、私はお会いする度にお母さんと呼んでいました。

1977年の、原水爆禁止世界大会の統一実現、国連に核兵器廃絶を訴える国民運動などでは、運営委員長として1985年まで、その先頭に立って活躍された姿を、昨日のことのよう思い出されます。

特に、1978年の第1回国連軍縮特別総会で、日本のNGO代表として、核兵器廃絶を訴えた、力強い演説は、忘れることが出来ません。

この国連軍縮特別総会に寄せられた署名は、1978年が2014万人、1982年が2937万人と空前の広がりを見せ、まさに草の根の息吹が日本列島をおおうかのようでありました。

これらの運動を思い起こすとき、田中さんの存在を忘れることが出来ません。あの優しい笑顔で、ねばり強く、時には不退転の決意で迫る迫力を幾度となく垣間見ました。

婦人運動家として、平和運動家として、消費者の代表として、その活躍は戦後の市民運動史に、そして、私たちの記憶に永遠に刻まれることでしょう。

長い間ほんとうにご苦勞様でした。有り難うございました。

残念ながら、核兵器は拡散の様相を呈し、世界は力と金だけがもの言うかの如くです。時々千の風になって私たちに奮起を促して下さい。

安らかにお眠り下さい！合掌！

佐々木 計三

元日本青年団協議会事務局長

財団法人日本青年館常務理事

謹んで、ご逝去を悼み、思い出とお別れの言葉を申し上げます。

田中様の急逝の報に接し、私たち職員一同、深い悲しみにつつまれております。私共、包装業界にとりませても惜しんでもあまりある大きな損失かと残念でたまりません。

振り返りますと、田中様との出会いは30年以上も前になる1974年（昭和49年）の日本パッケージコンテストの審査会場でした。このコンテストは私ども日本包装技術協会が主催しているもので、第1回コンテストは1967年（昭和42年）に開催されました。消費者側からもぜひ包装を評価していただきたいと審査員へのご就任を要請しましたところ、快く承諾され、1974年から審査員の一人に加わっていただいたのですが、それまで男性の技術者ばかりで構成されていた審査員全員が、その時かなり緊張したとの様子がいまだに語り伝えられています。それもそのはずで、当初、包装関係の集いに女性が参加することなど考えられませんでした。

このはじめてご参加いただいたコンテストの審査会の後に行った座談会の模様が当会機関紙「包装技術」に掲載されていました。ここれ、初めて審査員として参加された感想を「大変関心深く、勉強にもなるものだった」と述べる一方、「展示方法について包装の素人にもわかるよう、従来型と改善型の両方を展示すると審査がしやすい」と提案されていました。この提案は今日もなお誰にもわかりやすい展示方法として事務局では出品各社に推薦しています。また、この座談会では落選したパッケージを指して、「パッケージがそのまま再利用できるので良いと思ったのですが、結果として落選してしまい残念です。」と言っていました。この年はオイルショックの次の年で、“省エネ”という言葉が定着しつつあった年でした。当時、包装関係者は皆、“省エネ包装“技術の開発に奔走したものでしたが、こうした中で、あなたは再利用とか再生ということにすでに関心をお持ちでした。

そして、後継者の方にバトンタッチするまで、一貫して環境配慮というテーマのもとに審査に参加され、最後のご参加となった2004年（平成16年）のパッケージコンテストの審査後には、「環境問題に対する意識は、以前は企業と生活者の間にかなり差があったが、最近は両者が一緒になって考えている。地球規模での環境問題はこうした方向で考えてゆくべきだ」と講評されました。これまさに今日、当会が目指す活動方針の一つとなっています。

このように、今日まで叱咤激励を含む多くの貴重なご教示を頂戴してまいりました。これらを糧に、私たちは心をつにして業界の発展のため尽くしてまいる所存です。

本当にいろいろとお世話になり、ありがとうございました。

ご冥福をお祈りし、当会を代表して謹んで哀悼の意を申し上げます。

佐々木春夫
社団法人 日本包装技術協会 専務理事

田中先生。

東京地婦連の事務局で、はじめてお会いしたときの名刺を見ながら、先生を偲んでいます。名刺の裏を返すと「H7. 4. 18」の鉛筆メモ。

生命保険協会で、消費者関連の業務を担当することになり、ご挨拶にお伺いした、あの春の日のことでした。

「これから会う人は、必ず『先生』とお呼びするのだよ」と先輩から耳打ちされておりました。長年「保険審議会」委員を務められた方だから、私たち業界の人間はみんな「先生」とお呼びしていたのですね。

ただただ私は、どんなおっかない「先生」とのお付き合いが始まるのかしらと、そんな不安を胸いっぱいにして渋谷駅を歩いていたことが、懐かしく思い出されます。

そんな私に、「そうなの、新しい方ね。どうぞよろしくね。」とやさしく微笑んで差し出されたこの名刺。やっとのことで肩の緊張が解け、ほっとしたあのとき。

あれから12年の年月が流れました。

田中先生。

あの日以来、私はずっと消費者関連の業務に従事しています。消費者問題や消費者運動を学ばば学ぶほど、消費者運動の歴史とともに歩んでこられた先生の業績や偉大さを知りました。先輩に言われたからというのではなく、歴史を学び、尊敬いたしますが故に、私は「先生」とお呼びしつづけてまいりました。

田中先生。

もっともっと図々しく、何度もお会いして、先生の歴史を直接お聞きしたかったと、そのことだけが悔やまれます。

「千の風になる」というのが最後のメッセージとお聞きしています。12年目の4月18日、私は春の風に吹かれながら、先生のことを考えておりました。

これからもどうか私たちを見守り続けてください。はじめてお会いしたあのときのよう微笑みながら、未熟な私のことも見守って下さい。さようなら田中先生。

佐藤喜次

明治安田生命お客さま相談センター 消費者関連室

田中里子さんの涙

田中さんは私とは同年令で同世代を生きました。

戦後の混乱期に、いち早く全国の各地域に結成された地域婦人会を支えた全地婦連の初代の事務局長としてのご活躍は、広い視野と優しい語り口の中にも事にあつたては毅然とした行動が印象に残ります。戦後女性史の象徴的な存在でした。

その田中さんが全地婦連を退職されることになって渋谷で二人で会いました。田中さんは全地婦連の展望について熱い思いを語り、ご自分が尽力された活動を振りかえり語っているうちに突然、大粒の涙が双眼に溢れました。私は初めて見た田中さんの涙に驚くとともに、深い心の内を見た思いがいたしました。

その時、私は田中さんからクリスタルの小さな球形の置物をいただきました。以来、田中さんの大粒の涙を象徴しているように、いつも私の目の前で透明な美しい光を放っていました。いま、突然のご逝去に私の涙が投影しています。同年令、同世代をともに生きた田中里子さんがなぜ、という思いは消えません。

戦後の女性史を象徴する地婦連活動を愛し支えつづけた田中里子さん。
婦人教育行政や国立女性会館の創設にご尽力いただいた田中里子さん。
思いがけないご逝去を惜しみ、こころからご冥福をお祈りします。

志 熊 敦 子

元文部省社会教育局婦人教育長

元国立女性教育会館長

元日本女性学集団理事長

『田中さんへの手紙』

田中里子さんが長年にわたり、全国地婦連と日本生協連との連帯の絆のお一人となっていていただけてきたことに深く感謝いたします。

平和活動で田中さんは、統一して開催されるようになった81年「原水爆禁止世界大会」に大会の事務局として大いに奮闘されていました。全国地婦連、日本生協連、日本青年団協議会など消費者・市民団体も幅広く参加した大会で、難しい政治環境であったにもかかわらず大会運営をしっかりと切り盛りされた手腕に敬服したことを思い出します。82年第2回国連軍縮特別総会（SSDⅡ）には、日本から生協組合員などNGO代表団1200余名が参加しましたが、田中さんはその代表として被爆の実相と核兵器の廃絶について演説し、各国政府代表等に深い感銘を与えました。

最近の消費者運動では、製造物責任法（PL法）が94年に成立しましたが、そこに至る過程では産業界の反対も根強く、91年「消費者のための製造物責任法の制定を求める全国連絡会」が消費者団体や専門家・学者などが幅広く参加し、結成されました。その取組みの中で、全国地婦連会館をお借りして「欠陥110番」に取り組んだり、「冷凍庫発火による家屋火災裁判」への当事者と弁護士の橋渡しを田中さんが熱心にされていたことなどを思い出します。

消費者問題への関心もいつまでも衰えることはありませんでした。

ご冥福を心よりお祈りいたします。

品川 尚志

日本生活協同組合連合会 専務理事

田中里子さん逝去の訃報をお聞きして大変びっくりしました。

私は、原水爆禁止運動を通じてかなり以前から田中さんと知り合うようになりました。とくに最近では「第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ都民運動」をすすめていくことを通じて何かと行動を共にしてきてただけに、誠に残念な思いでいっぱいです。

一九九六年一二月に、二八年間の長い間海中に没していた、第五福竜丸のエンジンが三重県御浜町の沖合から引き揚げられましたが、このエンジンを東京の第五福竜丸の船体のもとに帰すため、東京都生協連の安藤さんが仲介役となって日頃平和のために運動をすすめてきた市民団体が一つになって「第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ都民運動」を発足させました。田中さんは、この運動の推進役となって、大事な役割を果たしてこられました。

「都民運動」結成集会の際には、一九六九年三月二二日にNHKが放送記念日特集ドキュメンタリーとして放送した「廃船」のビデオ上映のために奔走したり、エンジンを第五福竜丸展示館脇に帰すために東京都と折衝したり、和歌山県から東京・夢の島公園までの輸送について日通と交渉したり、エンジン所有関係者との交渉、そして渋谷駅頭・新宿駅頭などでの都民への宣伝行動等々の先頭に立って取り組んでこられました。

田中さんは、長い間、日本の婦人運動、消費者運動、平和・原水爆禁止運動のなかで特別な役割を果たされてこられました。とくに最近では、第五福竜丸から平和を発信する運動を軸に、アメリカのイラク戦争反対、憲法九条を守る運動、被爆者運動支援、米軍基地撤去の運動などに積極的に取り組んでこられました。

田中さんのこうした足跡に深く敬意を表しつつ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

柴田桂馬

原水爆禁止東京協議会代表理事

田中里子さんへの手紙

私たち青年団にとって田中里子さんはいろいろなことを相談できる市民運動の大先輩でした。青年団が毎年開いている青年問題研究集会の助言者を長い間にわたって努めてくださり、平和運動をはじめとする様々な運動のアドバイスをいただきました。

私自身、4年前に日本青年団協議会で現在の役職に就いたとき、運動の課題について相談に行ったところ、いろいろ励まして下さったことを今でも思い出します。

また、本当に様々な市民運動の場でお見かけすることが多く、運動の幅広さやネットワークの大きさにいつも驚きながら、一方で、お話を聞くのが楽しみでもありました。

そうした、活躍されている姿に接することができないことはとても寂しいことですが、これからは田中さんが持っていた情熱を少しでも受け継ぎながら、人と人をつなぐような市民運動に青年団員として取り組んでいきたいと思えます。

渋谷 隆

日本青年団協議会 事務局長

「風の会」からのごあいさつ

田中里子さん

長い間、本当にありがとうございました。

「司法に国民の風を吹かせよう」通称・風の会では、あなたのご発言と取り組みによって、いく度となく励まされ、勇気を与えていただきました。

風の会では、司法制度改革の中から出てきた「弁護士報酬敗訴者負担制度」運動には、多くの時間とエネルギーを費やしました。

幸い、大きな世論によって、制度導入が見送られたとき、「風の会」の今後についてどうしようか、との提案がありました。

あなたは、集会の閉会の辞で、「これからが大切、続けて司法制度を監視する一步をふみ出しましょう。」と、力強く訴えられたことをみんな、よく記憶しています。

風の会は参加団体も増え、集会も回を重ね、元気に活動しています。

田中さんの力強い、確信に満ちたご提案のおかげでございます。

これからも、田中さんのご意志を大切に、風の会を継続してまいります。

いつまでも私たちに力をお与えください。

風の会18団体を代表してご冥福をお祈り申し上げます。

「司法に国民の風を吹かせよう」

実行委員会一同

代表 清水 鳩子

田中先生とちふれ化粧品

田中里子先生に初めてお目に掛かりましたのは1968年8月のことでした。地婦連初代会長山高しげり先生と当時事務局長であられた田中里子先生、そして私の父（初代社長 島田松雄）と私の4人でお会い致しました。

ウソのない、真に消費者のためになる化粧品づくりを目指して、消費者団体である地婦連様と、化粧品のメーカーである私共が提携し、協力し合うことが出来ないか、の話し合いの場でありました。

当時はまだ化粧品は高価なもの、高いものほど美しくなるという「化粧品神話」の時代でありました。

今も残る、お目に掛かったその折のエピソードとして

山高会長：島田さん、選挙活動で陽にさらされ顔は黒くなってしまい、シワだらけになった私の悩みは解消できますね！

島田社長：会長さん、もしその様なことを期待されるのであれば化粧品は提供できません。化粧品にはそのような力はございません！

このやりとりが山高会長の信頼するところとなり、提携決断につながったと後に田中先生より聞かされました。

ウソのない化粧品づくりのパートナーとして認め合った初対面でありました。

この時を経て、地婦連様と私共が協力して安全で安心して頂ける品質で、しかもコストに見合った適正な価格の化粧品（100円）をつくり、世に送り出すこととなりました。

全国の会長様の会議で基本方針が決定され、その方針に沿って具体的な物づくりから、流通に至る様々な計画が立案され、その実行には田中先生が先頭に立たれて推進下さいました。

決めたら実行する、その力は消費者運動家として驚くばかりのパワーでありました。

先生は消費者の夢の実現に向けて確固たる信念でそれまでのタブーに挑戦されるとその時私は感じました。

物づくりにあたっては他では出来ないこと、やらないことに挑戦するとして、多くのアイデアをお示し下さいました。

事例としては

1. 価格 100 円……安すぎて不安がられる……都立衛生研究所での品質のチェック
2. 成分、分量の表示……情報を公開し、知る権利に応えるべき……安心の裏付け（国内初）
3. 色素、香料の無添加……スキンケア化粧品から不要なものを除く、皮膚トラブル防止……安全への対応（国内初）
4. ノンフロンガス……エコマーク商品第一号……環境保全への取組み（国内初）
5. 詰め替え商品開発……省資源への取組み（国内初）

等がありますが、全て田中先生のご発想・ご協力なしでは実現が難しいことばかりでございました。

そして特に先生が地婦連様の名を活かした「ちふれ」を寝ながら思いつかれたことはその代表的なものとなりました。

先生は女性にとって化粧品は必需品であるが

- ・ まず安全で安心して使えること
 - ・ その商品をつくること、使うことによって周りに悪い影響を及ぼさないこと
 - ・ 多くの人が手に入れやすい価格であること
- を常に考えなさいと教えて頂いたと思っております。

先生、永きにわたりほんとうに有難うございました。

生前、先生はその時が来たら私は「千の風になる」とおっしゃっていたと伺いました。

高く広い空のあなたからの先生のご期待にしっかりとお応えしていかねばと思いつつ、深甚なる感謝を込めて拙文を閉じさせていただきます。

島田 雄二
（株）ちふれ化粧品 代表取締役社長

田中さん、千の風になっちゃったの！まだ、まだ、早かった。残念！

合掌

田中さんは、1949年に地婦連の事務局に入局されたとのこと。私が生まれた年です。その私が、残すところ後2年で定年です。いかに長く、現役でご活躍されていたかを実感しています。

国民生活センターの草創期から、運営協議会の委員、シンポジウムでのパネリストや研修部主催のさまざまな講座の講師、月刊『国民生活』への度々の出稿などなど、大変お世話になりました。私はセンターに入所して最初の部署が研修でしたので、たぶん40歳後半の田中さんの知遇を得ました。しかし、お付き合いと言えるのは、PL法制定運動の時からPLオンブズ会議の活動を通してでした。田中さん独特のイントネーションで、問題の核心をついた発言をなさっていました。

PL法案審議の最終段階で、やや成立が危ぶまれる緊張する場面もありまして、制定派の期待を背に田中さんが、参議院の商工委員会の参考人で意見陳述をしました。堂々たる意見表明でした。その直後みんなで、同委員会の委員長の中曽根弘文氏の事務室に押しかけました。田中さんや清水鳩子さん、中村紀伊さんらに取りかこまれた弘文氏は、真摯に応接してくれましたが、まさに子ども扱いでした。長く長い実践活動を経験した者は強いなと、尊敬の念を抱いたものでした。

PLオンブズ会議が跳ねた後の酒席で、私の上質でないジョークに戸惑いながらも、笑顔で応じてくれました。その笑顔が可愛らしくステキでした。

結手

島野康

国民生活センター審議役

田中里子さん

この度は、突然の訃報に接し、一同、ただただ驚いております。

思えば、あなたは消費者運動のみならず、日本の生命保険の発展にも欠かせない方でした。特に、昭和 48 年に保険審議会の委員に選任されて以来、10 年以上にわたりご活躍され、今なお指針となる多くの示唆を残されました。

例えば、保険約款自体を分かりやすくすることの重要性を常々指摘されておりましたが、これは当業界の長年の最も重要な課題の一つであり、工夫すれどもご期待に添え切れなかった反省がございます。

また、消費者が多様な選択の機会を得て、かつその理解を深めていく場という特性も踏まえ、店舗販売等もいち早くご要望頂いておりました。実際、複数の会社が直営店舗を出し、当時は採算が合わずに広がりを見ませんでした。近年、直営・代理店問わず急激に普及・定着しつつあり、漸く時代が追いついてきた感もあります。

いずれも、消費者の自立や自己責任に関する強い意識を背景に、消費者自身が主体的に商品を選択し、加入するのがあるべき姿というお考えがあったのだろうと、今更ながらに拝察致します。

その他、消費者教育の重要性、契約の際の説明の充実化、更には比較情報の提供とその基準作りの必要性に至るまで、身近な消費者目線を忘れず、将来も見通されていたその慧眼を表すご意見は枚挙に暇がありません。

平成に入ってから、我々が消費者団体の方々をお招きして毎年行っている懇談会に度々ご出席を頂戴致しました。直近では 16 年 12 月にお越し頂き、舌鋒鋭い問題指摘とともに、暖かい激励の言葉を頂きました。

今後は直接ご指導・ご鞭撻を賜ることも叶いませませんが、我々生命保険協会は、今後とも消費者の自助努力を支える生命保険のあり方を、消費者の皆さまとともに考え、追求し続けて参ることをお誓い申し上げ、お別れのご挨拶とさせていただきます。

社団法人生命保険協会

事務局一同

『田中里子様へのお手紙』

しばらく前から体調を崩されていることはお聞きしておりましたが、この度の突然の訃報に驚きと悲しみでただ呆然と立ち尽くすばかりです。

戦後すぐの騒乱時期から、優れた信念、指導力そしてお人柄とで、消費者運動の先駆者として活動され、私ども消費者にとって永久に忘れることの出来ない数々の偉業を残されました。そしてこれからも脈々として田中様の信念、思いは受け継がれていく、受け継いでいかなければならないと思っております。

昭和63年に創立いたしました私どもNACSにとっては、当時すでに全地婦連事務局長を退かれ、東京地婦連の常任参与として活動されていた田中様は、雲の上の方の様な存在でした。

創立の翌年に行った「商品事故なんでも110番」の実施に当たっては、会場のご紹介から相談担当者への細やかなお世話までいただき、爾来19年毎年開催しております「NACSなんでも110番」の基礎をおつくりいただきました。また、住まいが田中様と同じ路線であった当時のNACS副会長三村は、「すでに若干脚がご不自由になられていた田中様に手をお貸ししながら電車でご一緒し、いろいろなお話を頂いたことは、私にとって田中様との大切な思い出です。」と当時の回顧にひたっております。

平成15年に実施いたしましたNACS創立15周年記念行事には、お元気な姿でお祝いに駆けつけていただき、楽しそうに皆様と談笑されていた姿が目には浮かびます。

田中様の残された偉業を守り、発展させていくのは私たちだと決意を新たにいたします。

「千の風になるから」のメッセージを残し去られたとお聞きし、ああ、今私どもの頬を撫でる風が田中様なのだと想いつつ……。

社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 (NACS) 一同

田中里子さんへの手紙

すっかりご無沙汰しておりますうちにお会いできなくなってしまい残念です。

初めてご一緒させていただいたのは、1971年からの東京都消費生活対策審議会適正表示部会でした。まだ表示規制が現在ほど整備されていなかった時代でしたので、消費者側からは食品を中心にさまざまな規制が要求され、東京都も積極的に対応してくれて、表示部会は消費者代表が元気な時代でした。

そのなかで、光っていらっしゃったのは田中里子さん、あなたでした。ご発言の内容が光っていたのはもちろんですが、説得力のある話術は見事でした。言いたいことをストレートに主張する委員が多いなかで、その場の状況や説得する相手に合わせて、言い回しを巧みに変えられるのです。相手の心理まで読んでいらっしゃったのだと思います。ですから、業界ヒヤリングで、表示規制に反対する業界代表の態度を軟化させ、最終的には納得させてしまう、あの話術、あの表現力はほんとうに素晴らしいものでした。1977年に原水爆禁止運動が統一されたのは田中里子さんの功績と伝えられておりますが、あの説得力でなければ達成できなかったことと思います。

田中里子さんが消費者運動や平和運動に残された貴重な足跡を心に留め、また、伝えていきたいと考えています。いつもお忙しくご活躍でしたから、どうぞごゆっくりと自由な時間をおすごしくさせていただきますよう。

鈴木深雪

当時 国民生活センター

現在 生活サポート生活協同組合・東京

田中里子さんへの手紙

訃報に接し只只驚き嘆いています。

田中さんとお付き合いを始めたのは、1976年春からだだったと思います。

この時期、国連軍縮特別総会を前にして、「原水禁運動の統一」問題が話題になり当時の総評が提唱し、署名運動、国連派遣をテーマにして、運動体も統一できるのではないかと学者、市民団体が仲介して呼び掛けが行われました。

この市民団体というのは、日本青年団、生協連、そして地婦連でした。今、振り返って見ますと、地婦連は、大友よふ会長とともに、田中事務局長、松下次長という方々が、主として、原水禁、原水協という相対立している組織の言い分に悩まされたのではないかと考えます。

特に、出席メンバーだけで判断できず、某方面の指示がないと物事が決まらない場面は、会議毎で蟹感をかったのが鮮明に記憶に残っています。

この中で語り草になっているのは、暫くぶりで「統一大会」の開催に漕ぎ着けた76年広島大会のいわゆる、広島宣言です。私ども原水禁・総評グループは、当時、環境に大きな問題のある原子力発電所のとりあげかたと巡って、環境問題としてとらえ、抽象的に注意を喚起する文句を原案にいれておりました。

この文章は、事前に参加者全員の賛意で決定していたのに、前日、夜の時点で突如、異論が原水協からだされ、出席者が入れ替わり立ち代わりで、エンドレステープのごとき主張で、12時過ぎの深夜になってしまいました。

その時、田中さんは、市民団体を代表してこの会議に出ていましたが少なくとも環境問題としてとりあげるのがどうして悪いのか、市民団体の立場としてもこの文章は、適当な文言だと言い切り、原水協は当時の草野理事長の決断で決まったと言われています。

その外にも、地婦連と、日本青年館は会議の都度に会場を借用し、何時終わるのか分からない会議で迷惑をお掛けしました。

日本国内ばかりでなく、ジュネーブ、ニューヨークの国連総会や会議もご他間にもれずあやふやな文章で当面を糊塗しようとする人達には本当に悩まされました。その度に田中さんの出番でご迷惑をおかけしました。

ご冥福をお祈りします。 合掌

関口 和 (かのぶ)

当時 原水爆日本国民会議事務局長

現在 原水爆日本国民会議顧問

「田中 里子さんへの手紙」

満身で花を飾った桜の樹の下、田中里子さんは逝かれてしまいました。晩年は、憎い癌と闘いながら、なお、不屈の精神で消費者運動の先頭を行く貴方を、私は尊敬しつつも、はらはらして見守るばかりでした。田中さんと私の出会いは、55年前、あの敗戦からようやく復興へと歩み始めた頃でした。私が勤務する芝児童館の一室に、当時は、田中さんがたった一人の事務局員として机一つの同居をされていました。しばらくして、私は結婚、芝児童館を退職しましたが、山高しげり会長の下、全国地婦連の結成などで組織が拡大し、忙しくなった田中さんから誘われて、事務の手伝いをさせていただいたのが初まりでした。その後、私は出産で退職、子育て1～2年を経た頃、再び、人手不足の助っ人として、カラーテレビ買控え運動の価格調査のまとめやら、各種運動の資料づくりなどなど、それからもう、なし崩しにズルズルと地婦連に私は居続けているのです。「運動をやるときは、調査をして必ず裏付けをとる。それを土台にしてやっていかないといけない」が、田中さんの持論でした。

「ねえ洋子さん、今度、アレをしたらどうかと思うの」という電話に始まり私は田中さんの発案による、その「アレ」の調査の具体化に無い知恵を絞った苦労も今は懐かしい思い出となってしまいました。

とりわけ平和への思いが強かった田中さん。『お花見平和のつどい2007』を目前に亡くなられたことで、残された私たちは、第五福竜丸展示館のあの大嶋桜が咲く度に、新たな気持ちで田中さんが伝えようとされた、戦争のない平和な世界に向かって、運動を一層発展させていかなければ、との思いを強くするでしょう。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

東京地婦連消費経済部副部長 高梨 洋子

今から約 20 年前の（財）国民経済研究協会・企業環境研究センターがお願いしました経験交流会議でのご講演内容を覚えていらっしゃいますか。「これからの消費者運動の行方」というテーマでした。私の記録を読み返してみたら、その時のご指摘は今でも通用する鋭いご指摘で、改めて、びっくりしています。皆様に2つの点だけ紹介してもよろしいでしょうか。「そーおー？」とおっしゃるお声が聞こえてきたような気がします。

ご講演を聞いた対象者は企業の消費者部門や広報部門の責任者の方々でした（昭和62年11月17日に開催）。そのひとつは消費者団体も力を付けて、行政に「おんぶにだっこ」から脱皮すべきで、団体は「徹底して情報を収集して力を貯える必要がある」と。ふたつ目は「企業の消費者部門は本当に社内で力をもった部門だろうか」と疑問を提起されました。取締役や常務クラスに問題があるかもしれないが、消費者部門ももっと力を付けるべきではないかというご指摘でした。

行政に「おんぶにだっこ」の話は、平成16年に改正・制定された「消費者基本法」で消費者の自立が明示されたことを考えれば、約20年前に問題の行方を読んでおられたこととなります。やっぱり、現実の問題を厳しく分析されていたから、本質を把握されていたということでしょうか。消費者部門への疑問についても、最近の消費者問題の頻発からみて、今、そのまま当てはまるお言葉であることはいまでもありません。

今、考えますと、企業調査で地方に出かけたときなどに、時間が足りない程お話をしましたのに、問題の本質を捉えて、先取りするノウハウを教わらなかったのは私の不覚でした。でも、現実、現場から発想することの重要性に再触発されましたので、私なりに頑張ってみたいと思います。天上からご覧になられて、本筋から離れた時にはピカピカとサインを送ってくださいませ。

高橋 明子

東京経済大学非常勤講師

(元相模女子大学教授)

「田中里子様を偲ぶ一出会いの素晴らしさ」

田中里子さんとは、三洋電機冷凍庫出火被害者の北川ご夫妻の裁判傍聴でご紹介頂いてからのお付き合いです。

毎回地婦連他の皆さんも傍聴に駆けつけておられることをお聞きし、私もご夫妻と上京お店の代表として応援しなければと、勝訴判決が下るまで、3回傍聴支援をしました。

私をご夫妻の人柄と裁判に打ち込む姿勢に、お店の常連も、一生懸命応援している状況をお話しする度、田中さんは、この裁判は絶対勝たねばならないと励ましてくださったことが、ご夫妻や私共にとって、力ある励ましになったことを、今でも鮮明に覚えています。

そして、勝訴後の地元郡山市で北川ご夫妻が開かれた勝訴報告会、田中さん、水野さんから喜んで伺いますとご返事があったことをお聞きし、私は一心同体のように嬉しくて心躍る幸せを感じました。

報告会なのでご夫妻は皆さんからお祝い金は受けないと固辞されました。そこで私は、その代わりに東京地婦連で「街に緑を」の運動をされておられることを前にお聞きしておりましたので、その緑の銀行に、お一人二千元皆さんにご寄付頂ければと提案、集まったお金を田中さん水野さんへ、奥さんと私が贈呈させてもらったことは、私にとって嬉しさ極まりない出来事でした。

その最後の寄付金が、第五福竜丸保存館前に植樹された紅八重大島桜とお聞きし、毎年平和の集いお花見会が開催される楽しみの様子をお聞きする度、「人の出会い」の大切さを言っておられた田中さんの功績、偉大さ、素晴らしさを心に刻んでいます。

田中さんは、お会いするたび北川さんからの手紙は確り書かれていて、この被害者には是が非でも会いたいという、不思議な縁を感じたと話されていました。会ったら尚更助けてあげたい、助けなければならないという意欲が湧いてきたそうです。縁もゆかりもない人からの手紙で、こんなに心揺さぶられたことは無いとも言われていました。

多くの掲載内容から田中さんの記事を見つけられたことが、田中さんとの赤い糸の結びとなり、実に繋がった線上に私も加わられた幸せを今つくづく感じます。一月末片付けをしていましたら田中さんからのお礼状が出てまいりました。懐かしく早速北川さんへお電話、お元気なのでしょうねと尋ね、大丈夫と言われ、裁判時代の話しに花を咲かせ、機会があれば又会いたいと伝えただけでした。

それから二ヶ月、突然の訃報を新聞で拝見、早速仏壇にお線香を上げ心からご冥福をお祈りしました。

田中さんの素敵なお顔を忘れなくなる寂しさは募るばかりですが、出会いによる楽しかった思い出を沢山ありがとうございますと語りかけ、安らかにやすみくださいと申し上げます

最後に、私も北川さんや皆さんと一緒に”里子先生～さようなら”と唱和させていただきます。

高橋 ルリ子 郡山市

田中里子様

消費者運動のきら星が一つ消えた思いでおります。

いつも時代を先取りした先駆的なさまざまなお活躍には、ご尊敬を申し上げると同時に畏敬の念でいっぱいでございます。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

玉本雅子

社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 最高顧問

田中里子さん、笑顔をありがとう！

田中里子さん、あなたはいつも微笑んでおられました。

誰でも、その笑顔に引きつけられてしまいます。

消費者問題というと同じ思いをいつも共有してくださいました。

新しく参加する人に対し、その暖かい笑顔が迎えてくれました。

ありがちな排他的なところがまったくない笑顔、本当に素敵でした。

わからないことがあると、知らないこと蔑むこともなく

「いいのよ、これから勉強すれば」と言っておられました。

その包容力に甘えさせて頂いたことにお礼を申し上げます。

後半、体調が決して良いとはいえない時でもイベントにお元気に

参加されるお姿にその意志の強さを垣間見ました。

その姿は、運動は頭で考えるものではないことを示しておられました。

私もその意志の強さも見習いたいです。

でも、一番見習いたいのはあなたの笑顔です。

ありがとう、そして安らかに……

土田あつ子

(社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会

NACS消費生活研究所 主任研究員

田中里子さんのご逝去をいたみ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先輩としていろいろとお導き頂いたことをお礼申し上げますと共に、後に続いてきた今までの運動を受け継ぎながら、これからも進めていかねばと思っています。

いつもやさしい笑顔で、しかし強くしっかりとした主張を、あの有楽町の駅頭で、宣伝車の上から、お話し下さったこと、今もあのお声が耳の底に残っています。

先日も夢の島で、田中さんのいらっしゃらない「お花見平和の集い」が開かれましたが、いちまつの寂しさを禁じえませんでした。

長い間のご活躍お疲れ様でした。どうぞやすらかにやすみ下さいませ。志木市館に行った時にお尋ねしようと思いはたせなかったのを本当にくやんでおります。申訳ありませんでした。

寺田かつ子

東京都地域消費者団体連絡会 参与

田中里子さん、お別れするのは早すぎます。私たち被爆者が行動する時、田中さんは何時も顔を見せて下さいました。3月22日の「原水爆認定集団訴訟」の東京地裁判決でお顔を拝見できませんでしたので、どうされたのかなと思っていたのですが、ご病気だったとは！

残念です！！

田中さんとは1977年の「NGO被爆問題国際シンポジウム」から翌年の「第1回国連軍縮総会（SSD）」を通じて存じ上げるようになりました。特に「被爆問題市民団体懇談会」（1978年）が発足し、援護法制定2,000万人署名国民運動では街頭宣伝や国会請願行動などで、常に私たち被爆者を励まして下さいました。

この間、私にとって思い出に残っているのは、田中さんが1980年に市民懇の代表として、日本被団協の檜垣・山口代表委員、伊東事務局長、東京の山根さんと共に自民党の桜内幹事長に陳情した時、最後に田中さんが「被爆者問題は全国民の問題だ」と思い、率先陳情に来ました」との言葉は、幹事長の胸に強くしみ込ませました。

また東友会結成35周年記念「原爆犯罪を裁く都民法廷」で裁判長をされた田中さんの判決を忘れることが出来ません。

田中さん、天国に先に行っている檜垣益人、伊藤サカエ、伊東壯、斉藤義雄、井上与志男、長尾当代、田川時彦さんなど、多くの被爆者の方にお会いになったら、生き残った被爆者たちは高齢化しましたが、「ふたたび被爆者をつくるな」の願いを大きく広げてきていると伝えて下さい。そして空から私たちを見守って下さい。

ご冥福をお祈りいたします。

藤平 典

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）代表委員

東京都原爆被害者団体協議会（東友会）副会長

田中里子さんの訃報に接し、今更のように、お元気だった頃のご活躍ぶりが目に浮かんで参ります。

田中さんは、1970年代の始め私が世田谷区の消費者グループ（当時は「かしこい消費者世田谷友の会」、現在は、「世田谷区消費者の会」と改称）に入った頃には、すでに消費者運動の大先輩として活躍されており、私たち後に続くものは、大いに学ばせて頂きました。

その後、私が日本消費者連盟として行動するようになった頃からは、日本婦人有権者同盟を事務局とする、国会議員の不正を糾す取り組みや、平和憲法を活かした政治を求める取り組みに、共に力を注いで参りました。

その中で、田中さんの政治の不正を許さないという怒りや平和に対する情熱をひしひしと感じて参りました。

憲法改悪のための「改憲手続き法案」が衆議院を通過し参議院での審議が始まった今こそ、田中さんと共に行動致したかったと思わずにはられません。

田中さん、私たちは、これまで共に切り拓いてきた道筋を踏み固めて参ります。

田中さん、私は、「どうぞ、安らかにお眠り下さい」と申すのをためらっています。

あなたは、眠ってなんかおらず、「千の風」になって、あの大きな空を吹き渡っているに違いないからです。

今、共に行動致した歳月を噛みしめています。

長い間、ありがとうございました。

富山洋子

特定非営利活動法人日本消費者連盟

「千の風になって」

「里子さん」と呼ばせていただくのは、おこがましいのですが、やはり私の中では、「里子さん」なのです。

国連会議での「原水爆禁止と平和」を女性の立場で、“命をはぐくみ育てる母親たちの願いは、平和そのものなのです”とうったえた演説に、心打たれ、本当にすばらしい女性と感じました。

この時から、ぐっと近い存在となり、地婦連でお会いするのが楽しみでした。最初の出会いは、並木良さんの紹介です。西多摩へはよく出かけてきてくださいました。都心から離れた地域に婦人の集いがあることを評価してくださり、地域活動の大切さを良く語ってくださいました。

どんな時でも「ありがとうございます」とおっしゃり、「続けていくこと、大変でしょう。でも皆さんの活動が、地婦連の力になるのよ。よろしくね」といつも云われる姿を忘れられません。多勢の中には反発する人がいますが、常にその意見を聞き入れて、やさしく、主張をまげずに諭すように納得させる技量の大きさに、ご一緒の時間を多くもちたいと願っていました。

病と闘いながらも、お元気な時にはお顔を見せてくださり、数々のアドバイスをいただきました。最後にお姿を拝見したのは、2月の観劇会の時でしょうか。こんなに早く……。まだまだご指導いただきたいと願っていました私です。本当に残念でなりません。

里子さんのことば「千の風になるから」を信じています。私たちの活動を、日本の将来を見守り導いてください。

—やすらかに—

中野三千代

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 書記・消費経済部長

田中里子さんへの手紙

私が弁護士になって薬害スモンの被害者の支援をお願いしたときから、PL オンブズ会議で共に活動したつい昨日まで、四半世紀以上にわたって「地婦連の田中さん」とのお付き合いが続きました。ゆっくりした語り口は常に無駄なく的を射ており、いつも感心していました。何が必要かをすばやく見抜き、迅速に人をつなぐセンスのよさも抜群でした。冷凍庫から出火して被害を受けた福島の前川さんが、孤軍奮闘してなお解決しないとき、田中里子さんが新聞に PL 法制定につき投稿された記事を見て田中さんに手紙を書きました。その手紙を見て即座に私に取り次いでくださいました。実に時効の1週間前でした。そこから大急ぎで深夜の内容証明送付、提訴と進め、あの画期的な勝訴判決につながったのです。田中さんはこの事件の法廷傍聴にも毎回来ておられました。その詳細な経過は「冷凍庫が燃えた！メーカー敗訴の PL 訴訟」（全国消団連 PL オンブズ会議編、花伝社刊）にあります。田中さんの機転と人脈と、ねばり強い支援がなかったら、前川さんの被害回復も、歴史的勝訴判決もこの世になかったかもしれません。この一事だけでも世の中に消えることなき大きな足跡を残されました。

弁護士 中 村 雅 人
PL オンブズ会議
東京 PL 弁護士 代表

核廃絶への思いを共有して——田中里子さんへ

田中さんに少人数で最後にお会いしたのは、もう3年も前になりましたか。田中さんが声に力をこめて、平和への思いを語られていたのが、いまでも耳に残っております。そのときは、広島・長崎の平和集会を市民団体として統一したこと、そのときから生協をパートナーと考えるようになったことなどをお話になりました。

東京都生協連と田中さんとの平和に関わる最初の接点は、第五福竜丸のエンジンのことでした。1996年、エンジンが三重県熊野灘沖で引き上げられ、田中さんはそのエンジンを東京に持ち帰る「第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ」都民運動の先頭に立たれました。数々の困難をクリアされ、1998年3月、東京都にエンジンを贈呈した後に編纂された「都民運動の記録」の中で、田中さんは、「地婦連の平和活動は第五福竜丸から始まった」と書かれています。

そして3年前、田中さんから東京都生協連に対し核兵器廃絶を目指した共同の取り組みをしましょうとのお話がありました。この田中さんのお話から、東京地婦連、東京都被爆者団体協議会、東京都生協連の三者で実行委員会を形成、日本生協連が協賛する「ピースアクション in TOKYO～つないでつないで 東京から平和を～」として実現しました。今年も第3回目のピースアクションが5月10日、渋谷のウイメンズプラザで開催され、その後、例年、ピースパレードが展開されます。

田中さんは「私は千の風になる」と言われて旅立たれたそうです。4月7日に開催された「お花見平和のつどい」では、多くの方が田中さんを追悼し、「千の風」となった田中さんに、悲しみと今後の決意を述べておられたと聞きました。

私たちは田中さんの遺徳を偲ぶとともに、力を合わせて核兵器廃絶と戦争のない平和な世界の実現に向けて努力を重ねることを、ここにお誓い申し上げます。

名和三次保

東京都生活協同組合連合会会長理事

謹んで故田中里子様の御霊に捧げ奉ります。

この冬の終わりとともに、田中様は、人々のために身を捧げた人生に幕をおろされました。

今、あなた様の御霊は、色鮮やかな新緑に生まれ変わり、全国の志を同じくする皆さまを優しく、また、温かく見守られていることでしょう。

田中様は、昭和38年から全国地域婦人団体連絡協議会の初代事務局長として、戦後の荒廃した世の中から復興期において、消費者保護運動・女性の地位向上・平和運動等、全国各地で幅広く活動をされ、全地婦連の礎を築かれました。

日本全国の女性の希望の光となり、全身全霊でご尽力されてきた事が、現在においても、脈々と受け継がれ、今、真に社会が変わろうとしております。

弊社ムトウといたしましては、弊社の創成期におきまして、創業者である故武藤鐵司・武藤信義ともに懇意にさせていただき、全地婦連のご協力のもと、婦人会服「トッパー」を足がかりに業容拡大を図ることができました。

ムトウが今日在るのも、田中様をはじめとした全国の婦人会の皆さまのおかげであります。

ムトウの「社是」として現在掲げている、「信頼される企業」「奉仕の精神」は、婦人会の活動理念とあわせて事業活動を行っていくことを、将来にわたり社員の心の拠りどころとしているものであります。

このように、特別のお力添えを賜りました田中様が、尊い奉仕の生涯を閉じられましたことは、誠に痛恨の極みであり、光明の消えうせた感一入であります。田中様の残された様々な活動・志は、間違いなく私たちの心の中に生き続け、日本の歴史において、永遠に語り継がれていくことでしょう。

田中里子様の在りし日を偲び、この機に改めて深甚なる敬意を捧げつつ、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

何卒安らかにお眠りください。

合 掌

西田 溥
株式会社ムトウ 取締役会長

里子さん。子どもの頃のように、こう呼ばせていただくのをお許し下さい。私が里子さんに始めてお会いしたのは昭和24年10月、東京地婦連はじめての行事“母子列車長瀨ゆき”に、母につれられて参加した小学校6年生の時でした。事務局に入られたばかりの里子さんは、とても「きれいな、“やさしいお姉さまでした。おぼえていらっしゃいますか。あれから58年も経ったのですね。

札幌で子育てをしていた頃の私は、ブラウン管を通して里子さんのすばらしいご活躍をいつも遠くから応援して居りました。東京へ帰ってからのこの10年余、消費者運動を田中さんとご一緒できる幸をいただきました。2001年、「核の悲劇を忘れないように訴え続けましょう」との田中さんの呼びかけで“お花見平和の集い”が発足し、そこから始まった折り鶴に託した平和活動のお手伝いをさせていただいて今年7年目となりました。いつも力をそそいで居られた田中さんがいらっしゃらない今年の集いは、さびしいエンディングをむかえました。

折り鶴コーナーからの報告を受け持って下さった稲葉さんも同じ思いだったのでしょう。参加者が折られた200羽の鶴を高くかかげて「田中さーん、今年もこんなに平和を祈る折り鶴が集まりましたよー」と呼びかけて下さいました。すると期せずして参加者全員が「田中さーん」と何度も何度も呼びかけました。風になって見守って下さっている田中さんに届くようにと。皆の心がしっかり一つになって、私は胸があつく、涙が止まりませんでした。

田中さんの植えられた平和を守る樹は、しっかり根を張り、たのもしく育っています。人々の心に残る活動をどっさりなさった田中さん。田中さんの思いは皆の心の中にしっかり受けつがれています。戦争も核兵器もない、すばらしいところへ行かれた田中さん、とりもどされた御健康とパワーで、どうか大切な御主人様をお守り下さい。そしてチョッピリでいいですから残された私たちの頑張りにパワーをおかし下さい。

田中里子さん、本当にありがとうございました。

端山純子

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 会計・生活環境部長

田中里子さん、ご一緒できたことに感謝

田中里子さん、楽しくて、面白くて、とっても有意義な一生でしたね。

初めて田中さんのお名前を知ったのは、学生のときでした。当時の主任教官から、おもしろい運動がある・・と教えられたのが、カラーテレビの二重価格表示に端を発した買い控え運動でした。

東京で、縁あっていろんなところでご一緒できたことは、私にとっては得難い宝物です。1975年、国際婦人年連絡会の活動では“平和”運動の田中さんで、それはまた、まぶしいほどでした。PL法も法律を作って終わり・・ではなくて、冷凍庫の欠陥訴訟では先陣を切っておられました。華があり、実もある。

最後にいろんなお話ができたのは、2年前の『私と地婦連』（全3巻）の完成祝賀会のときでした。画面の若い田中さんは運動を志すというよりは、はにかんでいるように見えました。会の終わりのご挨拶は、長い間、さまざまな場面で運動に携わってきたけれど、自分にとっての一番は、「若い人たちが育ってくれたこと！」のひとことでした。いまの地婦連を見ても本当にそう思いますよ。

願わくは花の下にて春死なむ、その如月の望月のころ、そのとおりになりました。ゆっくりおやすみください。ありがとうございました。

原 早苗

埼玉大学経済学部非常勤講師

田中さんからの最後のメッセージは「よろしく頼むね。」でした。「司法に国民の風を吹かせよう・パートXIII」の報告をさせていただいた際の電話でのやり取りの中で、今にして思えば入院なさる日も間近の時でしたが、はっきりとしたその口調は今でも鮮明に甦ってまいります。

思い返せば、リベラルでしかも優雅さを失うことなく、傑出した能力を秘めた田中さんは、緻密さとおおらかさ、楽天的な面を併せ持つておられました。だからこそ頼み上手で、私のような者にもしばしば「頼むね」と仰り、調査から運動へといつしか田中ペースに巻き込まれて、昭和46年以来長いご指導を得て今日に至っております。

昨今或る意味で「成熟社会」を迎えたわが国では、「個」への回帰の一方で強いリーダーに依存しがちな風潮が見られ、田中さんが愛してやまない横のつながりを大切にするさまざまな運動も困難な時期を迎えています。

私たち残された者は田中さんの足跡をふり返り、諸先輩のともした火を大切に守るとともに直面する課題を捉え、NPOとして消費者問題をはじめとして広い分野での提言を続けたいと存じます。

田中さん、間もなく5月のピースアクションを迎えます。表参道のデモの時ご一緒させていただきましたね。私は腕組みするパートナーを失って寂しい限りです。どうか風になって私たちを励まして下さい。

長い間本当にありがとうございました。

飛田恵理子

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 生活環境部副部長

満開の桜のなか、貴女は静かに、毅然と、ご自分の生き方を通して、最後を迎えられたと、突然伺い、唯々貴女の面影を追い求めました。田中さん、田中里子さん、何回お呼びしても、優しげなお顔に満面の笑みをたたえ、胸の辺りで手を振っていらっしやる。それなのに答えて下さらない。悲しみが胸一杯に広がり、涙がとめどもなく溢れました。

半世紀という長いお付き合いは、消費者運動、平和運動、消費者代表の立場での審議会、会議から海外視察と、数え切れない程、ご一緒の機会にめぐまれました。

50年の歳月を振り返り、最初の出会いはさだかでもございませぬが、地婦連会長の山高先生の参議院選、江東区議の小柴美知さんの区議選の頃、ご活躍の若々しいお姿が浮かんでまいります。また、寝食を共にする長い視察の旅では、沢山の写真に、違った風景の中、楽しかった日々が写し出されています。

あれこれの思い出の中、不思議とご一緒の時、一度も嫌な思いをした事がないことです。本当に稀有な方です。誰にも気まずい思いをさせない、貴女の素晴らしい感性は、共同運動の中心的存在として、成果を上げられるのも当然のことでした。

特に戦争の体験者として、「平和」を願い、その思いは、ご自分の使命と思われる情熱で、家庭の平和から、世界の平和まで、一貫した思想で「平和運動」に参加、生動してこられました。

発案、実行された今年の「お花見平和のつどい」はなくてはならない貴女を失い悲しみの集会になりました。「八重紅大島桜」を前に第五福竜丸を平和運動の発信地として守り育てることを貴女への誓いとし、何時までも貴女と共に在る事を全員で確認しご冥福を祈りました。

「千の風になって」あの空を吹き渡る風に貴女を感じ、もう泣きません。心地よいそよ風に、雨戸をたたく夜風にも田中さんを思います。忘れません。いつまでも。

兵頭美代子
主婦連合会会長

『田中里子さんへの手紙』

田中さんを思い出すのは、田町駅近くの松下電機の会館で、1970年秋、消費者5団体で当時の松下正治社長に、カラーテレビの値下げと二重価格の廃止を迫った会談に一緒だった時のことです。

当時、大手家電メーカーは輸出を伸ばすため、輸出価格は低く、国内価格を高くしていた。国内実売価格は「現金正価」の表示に比べ、平均して22.8%も低かった。

田中さんは地婦連での実態調査を発表し、公正取引委員会に調査検討を要請し、同時に、地婦連の提唱で消費者5団体（地婦連、主婦連、日本婦人有権者同盟、消費者の会、日本生協連）がカラーテレビ値下げ運動に起ちあがった。そして、全国消費者大会に結集していた消費者団体と呼応して、全国的な買控え運動に発展した。松下社長との交渉でも、田中さんは調査の資料に基づいて、落ち着いた態度で堂々と迫っておられたことが、強く印象に残っています。

1977年の原水爆禁止世界大会は、14年振りに再統一した大会でした。地婦連は日本生協連、日本青年団日青協とともに、消費者団体も参加する幅広い統一大会を支える中心的な団体でした。事務局長である田中さんの果された役割は非常に大きかったと思います。長く続く大会準備のための会議、それを纏める力量、我慢強さは、よく覚えています。

1982年6月の第2回国連軍縮特別総会（SSDⅡ）で田中さんが日本のNGO代表として、立派な演説をされたことは、参加した者はみんな記憶しているところだと思います。

田中里子さんのご冥福をお祈り致します。

福田 繁

日本生活協同組合連合会 元専務理事

春かぜさんに感謝

昭和49年、東京都委託事業“お台所ダイヤル”が始まったばかりの頃、私は担当者として初めて田中里子さんにおめにかかりました。女性の社会進出がまだまだの頃、子育てにゆとりが出来、若い頃勉強をした栄養学を生かす何かをしたいと漠然と考え始めていた時、地婦連とのご縁をいただきました。

許してもらえそうにない舅に週2回、仕事をさせて欲しいと頼みました。田中里子さんは当時、平和運動に消費者運動に、とりわけ100円化粧品ちふれの発売、テレビの買い控え運動にと八面六臂のご活躍で夙に有名になっていました。

里子さんの許でのお仕事は義父の心を動かし、大いに結構だと一つ返事でg oサインが出ました。うれしいお許しでした。

お台所ダイヤルはその後、献立情報、生活情報、そして、生活必需品の価格調査、分析、食品の安全性へと輪を広げながら、25年間の歳月を重ねました。NHKラジオ消費者の時間は、主婦連と地婦連が隔週1回交替で担当致しました。ラジオへの出演は緊張しました。オーストラリアとアメリカの二度の海外視察、食にまつわる委員会への出席、すべてに自信なく消極的な私に「一主婦の目線での意見が大切、むずかしい事は専門家にまかせればいいのよ」と私の背をポンと押してくださいました。沢山の身に余る体験をいただきました事に感謝しています。

小気味がよい言葉づかい、やさしさ、品性のよさは里子さんの特許、思い出はつきません。時には怒り、時にはやさしく、あたたかく、春風さんありがとうございました。桜舞う季節のすてきな女の一生の幕引きを私は決して忘れません。心からご冥福をお祈りいたします。

福本悦子
女性都民クラブ会員

しなやかで頼もしいリーダー 田中里子さん

田中里子さんとは昭和30年代、消費者運動に勢いがつき始めたころからの長いお付き合いでした。最初は日本経済新聞の社会部記者として、私はもっぱら取材でお目にかかりましたが、地婦連の名事務局長でいらして、適切に運動の状況や展望などを話してくださり、大変ありがたい存在であり、またやさしい風貌に親しみを感じていました。のちに婦人家庭部に移った後は、別の視点で消費者問題にかかわりましたが、そのときの印象を総括すると、田中さんの過不足のない情報提供が、その後もずっと、幅広い消費者団体をまとめる力となり、生き物のように動いてやまない運動の、浸透や進展に大きく貢献されたと思います。それらを広く見通し、分析して話せる力量のある、実に頭脳明晰で活力のあるお方でした。

議論の場ではおっとりした独特の口調、やさしいお声で、しかし問題点をきびしく的確に指摘して一步も引かず、反対者たちをたじたじとさせる強い気迫がありました。そこには生活者の権利を守るという確固たる信念があふれていて、頼もしいリーダーだと私は常に尊敬しておりました。

仕事を離れてはよく冗談を言い合ったり、気さくな一面を発揮されました。特にご夫君が東京新聞の記者として文部省の記者クラブにおられた時期があり、そこでたまたま私もクラブの仲間としてご一緒させていただいたこともあって、何かといえば共通の話題になり、よくおうわさを聞かせていただきました。そんなときは仲のいいご夫婦の生活を垣間見せる、幸せな家庭人としての一面を惜しみなく披露され、人間的な魅力の一面をうかがうことができました。

里子様のご冥福をお祈りするとともに、ご夫君義郎様に心からお悔やみ申し上げます。

藤原房子

元日本経済新聞編集委員

「万の風」になって下さい

田中里子さまのおつきあいは、私が駆け出しの新聞記者のころから始まりますから、40年以上になりますでしょうか。新聞記者を辞めた後も、色々のところで、仕事をご一緒にしましたが、いつも、笑顔で、安心してお話できる人生の先輩でいらっしゃいました。

なかでもいちばん思い出深いのは、十数年前、東京都の霊園管理問題検討委員会部会でともに委員をした三年間です。墓地の継承や、散骨賛否、都市型のお墓の在り方などが課題でした。お墓というのは、家族関係や経済事情、主義や思想のからむものですから、議論も厄介でした。机上の議論だけではよい案も出ないので、東京都との墓地はじめ、近県の墓も視察しました。ロッカー式の、いわばお墓のマンションを見学したときは、「人生を終わって、こんなところに閉じ込められるのはイヤだわね」と二人で顔を見合わせたものでした。

墓地の継承が「長男」とされていた、女性差別の見える規定にも、二人で反対しました。また、散骨の問題では、環境問題や宗教観など、さまざまな角度から意見を出しました。でも、死後こそ、自由で、平和な状況にありたい・・・田中さまはそんな思いを抱いておられたように記憶しています。

長年、市民・消費者活動や女性活動に取り組み、常に気配りと、人々を納得させる発言と実践を心掛けてこられた田中さま。今こそ、自由で、平和な眠りについて下さい。と申し上げたところですが、現実の世界も、日本もますます不自由で不穏な状態です。だからこそ、「千の風」の歌のように、いいえ、「万の風」となって、私たちに叱咤し、激励し、応援して下さい。合掌。

松田宣子
元東京新聞記者

田中様、そちらの世界はいかがですか。きっと先に逝かれた小柴美知さんと「千の風」になっているところを巡られていることと思います。

ここ最近、お会いできなかったのは、やはりお身体の調子が悪かったからですね。3年前、全国消費者大会の分科会会場で、遅れて来場された田中さんは私の隣にちょこんと座り、「最近何かおもしろいモノ追っかけているの?」と、いたずらっぽく笑顔で話しかけられました。覚えていらっしゃるでしょうか。私が「おもしろいものって?」と問い返したら「時代のスキャンダルよ」と答えられたのを。私は消費者運動家がいっまでもお歳を召されない理由をまた一つ見つけた思いでした。勇敢果敢な心意気は、地婦連運動の伝統として、ずっと受け継がれていきます。安心して鳥瞰雄飛を楽しんでください。

田中さんからは、国の審議会が非公開だった時代に、豊田商事事件の幕引きになると批判された“現物まがい規制法”の取材で鍛えていただきました。消費者側委員として田中さんから審議内容をお聞きすることがとても楽しみで、夜遅くの取材も快く受けて下さり、いつも明瞭な説明でご教示いただきました。

ただ一つ残念なことは、田中さんから多く暖かい叱咤激励を受けながらも、私自身、何一つお返しできなかったことです。高齢者の被害は深刻化し、多重債務被害が急増し、格差社会が深化する中で、消費者問題はまさに構造的な「時代のスキャンダル」として浮かび上がっています。“その根っこを掘り起こすのよ”と示唆された田中さんとの約束を一向に果たしていません。その甘さを今回の旅立ちの報に接し、自戒する次第です。

どうか安らかに。

丸田 輝武

ニッポン消費者新聞 編集長

田中 里子さんへの手紙

田中里子さんがお亡くなりになったことに大変驚いています。

私にとって田中里子さんは、大変大きな存在でもあり影響力のあった方でした。特に「第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ」都民運動にご一緒に関わらせていただいたことは、私の一生において大きな経験になりました。この運動について田中さんがよく言われていたことは、後から振り返るとまったくの冷汗ものでしたと、おっしゃっていたことです。とにかく、都民運動が発足に向けて準備を重ねている間にも、東京へのリレーに向けて各地の市民運動は盛り上がっていたことと、大型トレーラーに乗せられたエンジンが和歌山県を出発して、西から東へ各地の市民運動に支えられながら、東京を目指して走ってきていたのです。更に最大の難問は、東京都の対応でした。しかし東京都各局の熱意ある対応と、当時の青島東京都知事が「東京から世界への平和の発信拠点として東京都は保存に全力を挙げたい」とおっしゃったことで最大の難問が突破できたことにあります。このような数々の難局においても田中さんの人柄でしょうか、田中さんの柔軟な考え方や対応で、すべてよい方向に向かっていきました。それを象徴する言葉に、この運動を田中さんは「ロマンに満ちた運動」と表現されたことです。反核・平和運動だけではないこの言葉は、田中さんの思いを的確に表現されていたからこそ多くの人々が共感したのだと思います。田中さんのあのやさしい語り口調とは裏腹に、心の底に秘めた情熱はすごいものをお持ちの方でした。

あるとき私は「平和運動は難しいですね」と田中さんに申し上げると、「今はずいぶんよくなったのよ。昔はもっと大変でしたのよ」といわれ、田中さんのこれまでの苦勞を無にしてはいけないと心に強く受け止めたことを思い出します。田中さんの思いは私たちの中にしっかりと根付いております。

もう田中さんがいらっしゃらないなんて・・・大変つらいです。

水越 雅子

元東京都生活協同組合連合会常任委員

田中里子さんを偲んで

2007年4月7日の「お花見平和のつどい」は、田中さんのオープニングの第一声が聞こえてきません。もう不可能になったのです。今までは桜がまだ咲いていなかった日、もう散ってしまった日、近くの陸橋の上で吹き飛ばされそうになった嵐の日などの平和のつどいでした。今年は桜が満開で暖かく、田中さんが参加されなくても皆が心地よく集えるように、取り計らってくださっているようでした。

参加八団体の皆様も、今ここにおられなくて本当に淋しいと語られ、地婦連植樹の桜の木の陰から今にも現れて来られるように私も思えたのです。

1982年、田中さんは、“国連核兵器完全禁止と軍縮を要請する日本代表団”に参加され、国連会議場で日本代表として演説されました。NHK TVニュースでは、いつもと同じにゆっくりはっきりと、相手を納得させずにはおかない口調で語られ、印象は鮮明でした。

その後1988年、第3回国連軍縮会議の際には、川島会長と私も参加し、後に続かせていただきました。

消費税導入反対運動の時です。渋谷ハチ公前で宣伝カーに乗り、消費者団体が代わる代わる反対演説をしました。ピラまきをしていた私に、演説を終えた田中さんが今度はあなたの番よと言われ、初めて車の上に乗る足許が震えました。でもその時から皆の前で話すことができるようになったのです。早口の私は、田中さんのように言葉と言葉の間が未だに上手にとれません。

かつて初代山高しげり会長と共に、地婦連観劇会開始前の舞台上で挨拶された時のことです。黄八丈の着物に赤い帯をしめられた田中さんは、可愛らしくてすてきで、婦人運動の先頭に立った方とは全く思えませんでした。

昨年暮地婦連役員会の後、ご一緒に帰りJRに乗りました。空席がなく新宿でやっと席に座られました。私が下りた後無事に乗り継いで家に帰られたかとても気になりました。それはその時手を振っておられたお姿が、とても弱弱しくお見受けしたからです。

お淋しくなってしまいました。多々教えていただいたこと感謝申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

水野英子

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 副会長

田中里子さま

田中さんは、私が愛知県で消費者運動を始めた頃に、消費者問題について意見を述べている方として印象に残っています。地域で運動していて直接お会いしたことはありませんでしたが、そういう意味では40年余り前から田中さんのおっとりと、しかし言うべき事はしっかりおっしゃっていたテレビでのお顔に、一方的に知己になっておりました。

地域運動に徹したかった私ですが、日本消費者連盟事務局の活動に入った90年頃から全国組織の運動団体と接するようになり、田中さんともお会いしました。

2000年に発足した「司法に国民の風を吹かせよう（風の会）」で、ついに「弁護士報酬の敗訴者負担制度」法案を国会に廃案に追い込むまで、本当に皆一緒に動きましたね。

東京地婦連から敗訴者負担制度を審議していた検討委員会に送り出された飛田恵理子さんの活動に、田中さんが気を使い、飛田さんを背後で支えていらっしゃるお姿勢が、私にはかいま見えました。

私が親しくお話をするようになった期間は、田中さんの長い市民運動、消費者運動の流れのなかで、ここ何年かの短い間でしたが、田中さんはいつもあたたかく気配りをされた雰囲気醸し出されておりました。

市民運動は人と人との結びつきが大切です。田中さんが日本の市民運動に残された大切なものを、微力ながら引き継いでまいります。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

水原博子

特定非営利活動法人日本消費者連盟事務局長

食の安全・監視委員会事務局長

田中里子さん

確か昭和 14 年の事でした。実践高等女学校の入学式、4 月初めの事です。市電で永代橋から渋谷に行く電車がありました。

私は南久間町という「虎ノ門」の一つ手前の駅で乗り、里子さんは「京橋」から同じ電車に乗られました。青山七丁目（車庫前）、今の青山学院前で下車。入学式に偶然にお会いしたのです。「車庫前」から実践高女まで、青山学院の塀に沿って 1km 弱あると思います。

私は一人でしたが里子さんはおばあ様とご一緒でした。すぐに話しかけられ、話しながら行きました。つぶらな瞳、可愛い目、ゆっくりゆっくりお話をなさる方でした。親しみやすい方で、入学式の写真も並んで写し、偶然と級もご一緒でした。

里子さんのお家にはおばあ様が三人居られて、里子さんは何事もお手伝いしない、と言っておいででした。里子さんも私も泳ぐ事が好きで、良く海水浴に行く話をしました。

里子さんは葉山の森戸海岸にご親戚がおありの由、よく行かれるとの事でした。私は祖父が釣りが好きで、逗子の先の秋谷という漁師町に家がありましたので、海水浴に行くのが本当にたのしみでした。

里子さんとは一回だけ、はじめて青山 4 丁目（外苑前）の神宮プールにいきました。たいして泳げないのに、水は重く深こうございました。私は飴をもっていったので、二人でしゃぶって泳いでいたら、監視人のおじさんに注意されてびっくり。よい思い出となりました。

田中さんは 5 年生になると、上級学校を志望なさり、私は従姉妹にお嫁に行くのが遅れた人がたくさん廻りに居りまして、早く嫁に行かないと売れ残るよと弟まで言いますので、お嫁に行くことばかり考えておりました。丁度戦争の最中で、男の方はどんどん戦地に行かれました。私はいとこが多く居りまして、つられて宝塚歌劇に夢中でした。

里子さんは一つ違いの弟さんが居られて、お父様はご商売の傍ら、画などに興味をもたれておいでのようでした。旅行もお好きで里子さんに彼所が一寸良いとか、アドバイスされておいでのようでした。それでグループで箱根に参りました時も、里子さんの先導でした。

江戸っ子らしい雰囲気のお家で、お伺いした折には綺麗な「おすし」などって下

さり、やっぱり銀座に近い所は違うな、などと思いました。私は虎ノ門の近くに住まいがあって、議事堂の隣に原っぱがあって。「議事^{ぎじ}つ^{はら}原」と名付けて、たのしい遊び場でした。今、議員宿舎がたっているようです。

その後、何十年かたち、私は主人について地方の方々を廻り帰ったので、その後の事は良く分かりません。

里子さんは大学卒業後「山高しげりさん」の地婦連に就職なさいました。場所は芝公園の傍でした。私の叔母が芝公園に居りましたので、里子さんがおつとめをはじめた許りの地婦連にお伺いしました。

その後随分たって、私の娘がアメリカから帰り、里子さんのおば様のお宅（世田谷）で、一年間位下宿させて頂いて、色々とまたお世話になりました。

東京に戻りましてからは地婦連主催の浅草公会堂の歌舞伎に毎年お誘いいただきまして、お蔭様で級友との再会を懐かしく暖めることができました。

本当にお世話になる許りでした。

愛すべきお人柄でした。寂しくなりました。里子さんの御偉績はきっと「千の風になって」私たちをお導き下さる事でしょう。

謹んでご哀悼の言葉とさせていただきます。

さようなら。

皆 川 益 枝
(旧姓 松本)

私と田中さんとのつながりは、なんと27年になります。

といっても、田中さんはきっとご記憶下さっていないと思いますが、それは日本消費者協会の20周年の折でした。私は式典の出し物中で、消費生活コンサルタントの活動について報告をいたしました。

このつたない発表をお聞きくださった田中さんは、消費者運動は草の根運動が土台になればならないので、コンサルタントの皆さんはしっかり地に根を下ろして草の根運動を展開して欲しいおっしゃってくださいました。

この田中さんの一言が私の今の活動を支えてくれています。田中さん、本当にありがとうございました。安らかにお眠りください。

日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 監事

三村光代

『田中先生をしのんで』

私と田中先生の出会いは今から40数年前の昭和41、42年頃だったと思います。当時、松竹（株）演劇部社員の私は芝公園内地婦連の事務局をお芝居の観劇の件でよく訪ねました。お芝居の話や世間話での楽しいひと時を思い出します。

昭和44年、独り身の私に、もうそろそろ身を固めてはと田中先生より助言をいただき、地婦連事務局勤務の女性がおすすめよといわれ、そして結婚式では、仲人もして下さいました。ほんとにこの時はうれしかった。

常日頃、消費者運動等のお仕事で忙しかったのに、私の事まで世話をして下さいました。田中先生との出会いで、誠に忘れる事の出来ない事でした。そして世間の人々の温かさ、人情を知りました。お蔭様で月日の経過とともに家族を成すことが出来ました。

平成14年、長い会社生活を終え一段落した頃、田中先生のおすすめで、世界の平和や核廃絶、消費者運動等いろいろなテーマの集会に参加出来る機会にめぐりあいました。

また、勉強会ではいろいろな人々とお話しする機会も出来ました。有り難うございました。

出会いから今日まで、こんなにも長く数々のご厚情をいただきせて貰えた事で感謝の気持ちで一杯です。

平成19年4月7日、良く晴れた桜満開の日、お花見平和のつどいで各運動団体が田中先生の人柄と功績をしのべば、公園の片隅であの優しい笑顔が、微笑みかけてくる様でした。今は、ここにお見えにならないのがさびしい限りでしたが、千の風となり、さわやかなそよ風となって私の身体を、みんなの身体をつつみ込んでいる様でした。いろいろとなつかしく思い出されます。

私たち家族に幸せをくれた人、田中先生、本当に有り難うございました。

安らかに、ご冥福をお祈り申し上げます。

女性都民クラブ会員 宮原勇雄

田中里子さんへの手紙

田中さんありがとうございました。

私が田中さんにお逢いしてから40数年がたちました。地婦連初代会長山高先生と田中さんが運命の出会いをなさったように、私も立場は違いますが、田中さんとお出合えしました事は運命と思いました。母のように公私とも親身になって接して下さい、いつも気に掛けて下さいました。恵子さん、恵子さんといつも名前でも呼んでいただき、深い愛情を感じておりました。

まだ独身だった時、私は母を早く亡くしておりましたので、心配して主人を紹介して下さいました。そして後にも先にも仲人は恵子さんだけよと、いつも言っていました。

長い年月があつという間に過ぎましたが、田中さんのもとで仕事が出来ました事は、私にとって幸せでした。田中さんは、そこに居るだけで存在感があり、とてもにぎやかで、周囲を楽しくさせる雰囲気がありました。

また事務局職員を何よりも大事にして下さいました。

地婦連の活動をささえ、消費者運動、平和運動など実行力を発揮して歩んでこられた歴史は皆の心に鮮明に残る事と思います。おつかれさまでした。

そして、私の人生の中の大切な田中さん。家族にとっても一番大切な人、本当にいままでありがとうございました。

さようなら・・・。

元事務局職員 宮原恵子
女性都民クラブ会員

田中里子さんは荒野の開拓使であり、井戸を掘った先駆者でもありました。消費者問題だけでなく、平和や教育など幅広い方面に関心をお持ちになり、活動の範囲を広げられました。国や都の審議会でも、ゆっくりとした語り口ながら、いつも鋭い発言をなさっていたのが印象的でした。私との接点は PL 運動が最初でしたが、優しさと厳格さを共存した包容力のある人柄だと尊敬しておりました。PL オンブズ会議の夜の例会に出席されても、「主人が待っているので」とおっしゃっては、早々にお帰りになっていました。思いやりのある方でした。年大会には、地婦連のメンバーを連れて出席していただいておりますが、もうその田中里子さんとお目にかかれないのはとてもさびしく感じます。

市民運動家には社会的な関心の幅が広く、個人的な細事にこだわらないところあります。「正義」「平和」「平等」など、青臭い言葉で議論ができ、ともに感動し共感できる先輩や仲間が少なくなっていくのは本当に悲しいことです。

宮本一子

社団法人日本アドバイザー・コンサルティング協会 常任顧問

田中里子さんへの手紙

私は田中里子さんと3本の映画（映像）を作りました。

1980年、『桜咲く日本へ ―ようこそ中国婦女連代表団―』、この映画は、中国の婦女連合会の代表団を、全国各地に案内し、全地婦連の各地域の婦人たちとの国際交流を記録したものです。カメラマンと私は、代表団と共に、東京、埼玉、栃木、山梨、静岡、大阪、兵庫、岡山、愛媛、広島、福岡等を訪問、バスや電車、新幹線や船を乗り継いで15日間の旅は、いま思い出しても大変たのしいものでした。

2本目の映画は、1982年、全地婦連の30年を記念して製作された『かたくつよく結ばれて―全地婦連30年のあゆみ―』です。

この2本の記録映画は、文字ではなく、映像でしか知ることができない貴重な記録としていまも残っています。

3本目の映像は、2003年の『私と地婦連』（3部作）で、全地婦連の事務局長を退いた田中さんに、地婦連創立当時の婦人運動と、その後の消費者運動、平和運動の3つをテーマに、自らの体験を語ってもらった、これも貴重な証言ビデオです。

インタビュー撮影は3回に分けて行いました。

この時の田中里子さんの顔には、後に残るものを話しておきたいとの強い決意のようなものを感じました。インタビューの服装が黄色い洋服で、黄色い服がよく似合う人でした。

（たしか国連での演説の時も黄色い服でした）

ちょうど最後の撮影時期が12月で、神宮外苑のイチョウ並木が見事に黄色に色づいており、インタビューが終り、急遽、このイチョウ並木を撮影し、この3部からなるビデオの「章立て」の背景画面に使おうと思い立ったことを、いま思い出しています。

記録映画監督（桜映画社）

村山正実

田中さんを知ったときは、1997年、主だった日本の平和運動団体が核兵器廃絶を目標にまとまって団結したころだった。

田中さんは婦人運動・消費者運動・平和運動をよくこなしメディアにもずいぶん協力し、新聞・テレビなどをにぎわしていた、精力的に行動していた人でもあった。とくに僕の知るところは、以前の全国地域婦人連連合会会長の、大友よふさんとともに1978年、第1回国連軍縮特別総会に向けて、日本国内の反核の意志をまとめあげる事に、大変な努力をなされた。あの時の被爆者の喜ぶ姿を田中さんはよく知っている。そのような田中さんと最後のお別れをしたい。

自分の力量をちゃんと知っていて、でしゃばったことをせずに、時の流れに逆らわないような生き方をしていた。

後輩を育てるのが上手なのだろうか、いつも若い女性たちに取り巻かれ、どんな時でも田中さんが出てくると、明るい笑顔が聞こえてくる、僕自身も一度も不愉快な目にあつたことが無い。

15年程前から「昔を語る会」という会が開かれている、1978年の第一回国連軍縮特別総会を成功させた当時の、青年だった層が中心になっている。田中さんは当初から参加していたが近頃は休みがちになってみんなが気にしていた。

田中里子さんは、やり残した事もあったと思うが、人生のすべてを満足にやり遂げていったと思う、本当にお疲れ様でした。

田中さんに一度話した事がある、オランダ・ハーグで秋葉忠利広島市長と伊藤一長長崎市長、お2人に丁度NPO法人世界ヒバクシャ展の会場で、「市長在職中に核兵器を無くしましょう」と約束した話はまだ継続中だと伊藤市長の墓前に叫びたい、田中さんも応援して下さい。

森下一徹

写真家・NPO法人 世界ヒバクシャ展 理事

田中さん永い間本当にご苦労様でした

青春時代から山高しげり会長と共に歩いてこられ今日に至るまで全身どっぷりと地婦連に漬かって来られましたね。平和運動を始めとし折々に発生する社会問題に素早く適切に対応され是々非々を唱えてまいりましたなくてはならない方でした。サッカーくじが取り沙汰された時には真先に先頭に立って関係団体と緊密な連携を取りながら強く反対運動を押し進めて参りましたね。その頃の見通しそのまゝの結果が現在の状況のようで残念でなりません。

いつも穏やかに理路整然と語っておられた田中さんの印象が忘れられません。頂戴した御指導を体得して今後に役立て、まいりたいと思っております。本当に有難うございました。どうぞ安らかにおやすみ下さい。ご冥福をお祈り申し上げます。

森谷敦子

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 副会長

里子さん。大先輩でいらっしゃるのに、このようにお呼びすることをお許してください。

里さんに初めてお会いしたのは、私が山高先生の秘書になったとき、昭和37年でした。翌年10月に里さんが、11月に私が結婚して、渡辺さん、田中さんと混乱して、とうとう山高先生との間で「里子さん」になったのです。同じような理由で私は里さんから博子ちゃんと呼ばれるようになったのでした。それに、あの頃地婦連の事務局では、苗字ではなく名前で呼び合っていましたね。

地婦連のことは里子さん、全未協のことは私の叔母の鯉淵鉦子、国会のことは私という役割分担でした。日程調整で地婦連と全未協二つの団体の中で先生の取り合いになることがありました。叔母は「山高先生、いのち」のような人で、全未協の方に先生を連れて行きたい、強硬に主張するのですが、そのようなとき一歩退いてくださるのはいつも里さんでした。もっとも、ソフトな口調と笑顔で話しているうちに、何となく里さんの主張が通っているということも間々ありましたけれど。

或るとき「婦人時報」に何か書いてと里さんに言われて、先生に話したら、「あの人は誰かれ掴まえて書かせるのが上手なのよ」と笑っていらっしゃいました。私はうまうまと里さんにのせられてしまったのですね。

私が秘書を辞めてからはお会いする機会もめったになく、お顔はテレビで拝見するくらいでした。またお会いできるようになったのは30数年後。私が夫を亡くした後、市川房枝記念会に勤めるようになってからでした。里さんは有権者同盟においでになると必ず「博子ちゃん、元気？」と顔を見せてくださるのでした。どんどん細く小さくなっていらっしゃる里さんを、私の方が案じていましたのに。

里子さん、もう、甘えさせていただけないのですね。お別れします。さようなら。

八木博子

里子さんと第五福竜丸の航海を

里子さんの発案で、ビキニ水爆実験で被ばくした木造漁船・第五福竜丸の展示館前に植えてくださった「八重紅大島桜」も若木から青年に育ちました。今年はとりわけ美しい花をつけ、それは里子さんをお見送りするかのように見事でした。

第五福竜丸のエンジンを夢の島へと市民団体のみなさんが取り組まれ、運動が実ってからは、毎年4月に桜の花見を掲げた平和のつどいを創ってくださいました。それは、いつも誰でもできる平和の取り組みをと一貫して心を砕いてこられた里子さんが遺して下さった大切な運動です。

その原点にはビキニ水爆・第五福竜丸の被災事件と原水爆禁止世界大会への参加があったことをうかがいました。核兵器も戦争もない、子どもも女性も世界中の人びとが暮らしていける社会を願い、実践しつづけた里子さん。最近はお会いするたびに、若い人たちが受け継いで…といつも励まされましたが、里子さんのお気持ちと行動力を心に刻んで、第五福竜丸からの発信をすすめます。

どうかこれからも、平和な港をめざす第五福竜丸の航海をご一緒に導いてください。

安田和也

(財) 第五福竜丸平和協会

天国の田中里子さんへ

思いがけない訃報にぼう然としています。あなたは、私より半年早いお姉さんでしたね。

戦前・戦中・戦後を歩んだ同世代という思いがあったからこそ判り合える親近感がありました。「消費者問題の地婦連」と「憲法問題の草の実会」に分かれていましたが、戦争と差別には敏感に立ち向かい、平和を希求するという共通の視点に立って話し合える仲間意識を持っておりました。

思えば、あなたとの出会いは、私が21年ぶりに、九州から東京に戻ってきた1981年のこと。「ストップ・ザ・汚職議員の会」「核廃絶と軍縮を実現するための婦人の行動を拓げる会」また湾岸戦争の停戦を求めて素早く結成した「平和をつくる女性たちの会」などで、炎天下や、雪の舞う中での街頭アピール、小集会から大集会までの準備と役割分担、集会アピール持参の首相官邸訪問と議員室めぐり、お互いに若かった時は本当によく動きましたね。あなたはいつも沈着におだやかな口調で話され、要旨明快で心強く感じておりました。

いまも「平和憲法を守る市民と団体の会」の発起人として共に運動をすすめています時、突然、手の届かない場所に逝かれてしまい、もう語り合うことも出来ない淋しさを思います。いま、この国の状態は、戦争の被害を実感した私たち世代の願いとは遠くかけ離れています。なぜ？と思う日々が続きます。でも「平和への希い」はあきらめません。

田中里子さん、長い間ありがとうございました。そしてお疲れさまでした。

どうぞ天国での安らぎをお祈り致します。

安増武子

元草の実会

現東京大空襲記念「平和のひろば」をつくる会代表

まさかこのような悲報に接するとは思ってもありませんでした。あまりに突然なことで、信じられない気持ちでいっぱいです。心からお悔やみ申し上げます。

田中さんを失ったことは、全地婦連・東京地婦連にとって惜しんでも余りある大損失であることは申し上げるまでもありません。

私ども北区婦連協におきましても、陰に陽に色々のご指導をいただきました。今日婦連協が幾多の困難を乗り越え、何とかやってこられましたのは、ひとえに田中さんのご指導の賜物と感謝いたしております。

私も会長として、何か壁に突きあたった時には、田中さんの日ごろの言動や、私どもに対していただいた指導を思い起こし、会の運営に当たってきました。田中さんだったらこの時どう解決するのだろうと思っただけで、なんとなく先が明るくなって、田中さんの言葉が浮かんできます。

母も地婦連に参加しており、その時、田中さんには大変お世話になりました。当時、私は母の手伝いをしておりまして、よく田中さんの話を聞かされていました。

的確に時代を捉え、将来を見据えての指導は今でも鮮明に母の話として、私の脳裏に残っております。そのあと母が亡くなり、私が会長を引き継ぎまして、田中さんに直接指導を受けるようになって、その感が一層強くなりました。今また母が亡くなったような気持ちで、ひとごととは思えません。

またひとつ大きな後ろ盾がなくなりました。どうしたらよいのか気持ちの整理がつきませんが、田中さんを失った今、いたずらに嘆き悲しむだけでは、決して田中さんのご恩返しにはなりません。田中さんから受けた指導をかみしめながら、地婦連活動のさらなる発展に取り組んでいきたいと思っております。

くじけそうになったら、ぜひ、叱咤激励してください。どうぞ安らかに。さようなら。

山下陽枝

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 書記・青少年部長

「公取と田中さん」

「山田さん」という抑揚のある声が、まだ耳に残っております。

田中さん、70年代の画期的な消費者運動のひとつとして、「カラーテレビ買い控え運動」をあげ、その獅子奮迅振りの一端を随想として雑誌「公正取引」に寄稿されておりますね(354号3ページ)。私も当時公正取引委員会の新米係長として、最も思い出深い経験であり、田中さんとの出会いでした。また、地婦連や他の消費者団体の方々と知り合うきっかけを作っていただきました。

当時、カラーテレビは、米国向けの輸出価格は安く、ダンピングが問題になっている一方、国内では実勢価格より著しく高く設定された「現金正価」を付けて売られていました。消費者5団体は、二重価格表示問題を契機に、カラーテレビの買い控え運動を行い、家電メーカーに希望価格を引き下げさせました。

当時、私は表示や広告の問題を通じて、社会を変えることができるのだと強烈な経験をしました。

その後、地婦連は、田中さんを中心として、化粧品等の表示実態調査や化粧品の再販売価格の適用除外制度の問題などを取り上げ、「ちふれ」を生み出していきましたね。田中さん達の活力にはただ驚くばかりでした。

田中さん、永年、独占禁止懇話会の会員(昭和48年から昭和63年まで)として、いつも「消費者の立場から一言」といわれて、貴重なご意見を頂戴してきました。ありがとうございました。

ご恩返しができずに今日を迎えましたが、30年前パリで勤務していた当時、姪御さんといらっしやって、ご案内して拙宅で食事をしていただいたことがよき思い出です。

山田昭雄
公正取引委員会 委員

原水爆禁止運動と消費者運動を支えたもの

田中里子さんの数多くの歴史に残る活動のうち、最も輝かしい活動のひとつは、1978（昭和53）年6月12日、第1回国連軍縮特別総会で被爆国民の代表として各国代表に感動を与えた演説でしょう。当時、大国の核兵器開発競争に反対する国際的な原水爆禁止運動が発展して、日本でNGO主催の国際シンポジウムが開かれ、その成果をふまえて、日本原水爆被害者団体連絡協議会（日本被団協）の代表とともに原水爆禁止運動を推進したNGOの代表として田中さんが、この第1回国連軍縮総会に参加されたのでした。

私は、1954年（昭和29）年にビキニ水爆実験を契機に、原水爆禁止運動が盛り上がり、そのなかで全国の地域婦人団体が大きな役割を果たしたこと、そのなかで田中さんが寄与されたこと、などは知っていました。また、1960年代から70年代にかけて、消費者運動の発展にもリーダーシップを発揮されていたことも知っていました。田中さんのお人柄までわかるようになったのは、1970年代NGO主催の国際シンポジウムに参加してからです。

最近まで、東京都原爆被害者団体協議会（東友会）の集會に招かれて、田中さんと同席する機会が何度かありました。

消費者問題を通じて、田中さんは私の妻とも親しくしてくださり、お互いの老後を気遣い、お会いした際には健康や活動を詳しく知らせあってきました。暖かくおつきあい頂いた体験と原水爆禁止運動でかかわった経験をふりかえると、田中さんの活動を支えたのは戦時体験をふまえた深いヒューマニズムと連帯意識を具体化するネットワーク能力ではないかと思われます。

田中さん、やすらかに眠り下さい。

山手 茂
新潟医療福祉大学大学院教授

田中里子さんへの手紙

1980年代の初め、非核東京都宣言を求める運動や東京都平和の日条例をつくらせる運動のころから、ご一緒する機会をいただきました。田中さんは、いつもほほえんで、穏やかで、ポイントを突くお話ぶりで、話し下手の私には感嘆することばかりでした。

ご一緒する機会がとくに増えたのは、第五福竜丸のエンジンを東京に移送する話が出た1997年ごろからでした。運動の始まりに、NHK製作の「廃船」のビデオをまずみんなで見ましようといったのが田中さんで、東京都生活文化局や建設局との折衝をして、説き伏せて、たった10カ月足らずの期間でエンジン受け入れの手はずを作りあげたのも、田中さんと東京都生協連の幹部の方でした。

一番驚いたのは、日通に話をかけて、和歌山から東京まで、600^{キロ}の道程を、12.5トンの重いエンジンを、大型トレーラーに積んで、無料で搬送する交渉をまとめてくださったことでした。輸送には、途中で各地生協のみなさんによる歓迎集会などがあって、30日かかりました。

どんなコネがあったのか知りませんが、よくもこれだけのことができるものだったものでした。

エンジンが第五福竜丸と再会できたあと、「みんなで見守りましようね」といってゆるやかな平和の連絡組織をつくることを提案し、「お花見平和のつどい」を毎年できるようにしたのも田中さんでした。

教えてもらうことばかりが多かった田中さんでした。ほんとうに「ありがとう」とお礼のことばを捧げたいと思います。

山本英典
東友会副会長

田中里子様

訃報を聞き驚き、ただ悲嘆しています。

田中さんと私は年齢も同じくらい、私が始めてお会いしたのは、東京地婦連の城東ブロック会議でした。当番区であったため、中央集会で発表の任に当たり、お話をした時からです。確か昭和45年頃でした。是非、東京地婦連に入会をと勧められ、会員になりました。

役員には全国生活学校連絡協議会の会長職を終えてから、昭和55年頃にご推薦いただき、お受けしました。

いろいろご指導を賜り、東京都や他の法人の委員にご推薦いただき、今日まで勉強してまいりました。

私の地域団体へも、婦人会活動の意義等、ご講演をしていただきましたね。

最近、身体も思うように動けず、退会したいとご相談したところ、「とんでもない。貴女の会がやめてどうするの。もう少し頑張って」と云われ、つい頑張ってきた私です。

その田中さんが逝かれ、呆然としています。最近、あなたも体調が悪いのに、頑張っただけなのに、実に残念です。

やはり、お姿があってこそ、地婦連活動が進展するのに一。何時もやさしい、思いやりのある心をお持ちの貴女。本当に寂しいです。

これからご意志を継ぎ、みんなで地婦連活動を頑張りますので、陰で見守って、応援してください。

心よりご冥福を祈ります。さようなら、さようなら。

谷茂岡正子

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 副会長

田中里子さんへの手紙

田中さんの訃報を新聞で知って、まさかと思いました。いつものように今年も年賀状の交換をして、お互いに変わりないな、又お目にかかりたいな、と思っていたところでしたので。

私が田中さんに始めてお目にかかったのは昭和 47 年（1972 年）で、当時私は経済企画庁総合計画局の物価担当計画官という職務にありましたが、その時「経済社会基本計画」という経済計画が作られることになり、田中さんには生活分科会の委員をお願いしましたが、私はその分科会の事務局を務めたのでした。経済計画作りに消費者運動家が参加するというのは確立されたパターンではなかったもので、田中さん達も新鮮な意気込みで取り組まれましたし、私共も真面目に対応し、その結果相互に信頼感が生まれました。

その後、昭和 60 年（1985 年）に私は国民生活局長を仰せつかり、田中さんには国民生活審議会の委員として大変お世話になりました。特に思い出深いのは、消費者問題神戸会議に参加させて頂いた時のことで、昼間の会議の後夕食を主催者等とご一緒し、それでも終わり難く、ホテルのバーで遅くまで語り合ったのは忘れられません。

田中さんは戦後の消費者運動の発展を支えられた先覚者のお一人で、小柄で一見ひ弱に見える外形ですが、芯はとても強い方でした。しかし、闘士然とした風体ではなく、ある種の女性的魅力を備えた温かい人間味がベースにある方でした。企画庁退官後もたまに食事を共にしたりして、消費者運動家と一行政官という枠を離れたお付き合いを頂いたことに深く感謝します。もうこの世でお目にかかれないのは極めて残念ですが、今や心からご冥福をお祈りするより他ありません。

横溝 雅夫

(社)経済企画協会会長

田中里子さんを偲ぶ

田中里子さんは、あなたは、実にさまざまな反核、平和の仕事で活躍なさった。その一つは歴史的なものでした。国連史上初めて軍備撤廃を専議する国連軍縮特別総会を開かせることに成功したとき（1978年5月23日～6月30日）。それ自体が、非同盟諸国と統一連帯した日本の反核の世論と運動がアメリカ、各国の運動と手を結んで国連を動かしたものでした。田中里子さんは日本の運動の中心にいました。

そのとき、NGOデーがもうけられ、国連総会場で、民間の声を政府、国連が聞くという一日が設けられました。ビッグニュースでした。総会場からの日本国民（NGO）代表団の演説を、事務局長の田中里子さんにお問い合わせすることになりました。

その日の演説を今も忘れられません。田中里子さんは核兵器完全禁止の演説をつぎのように結びました。

「いよいよ最後になりました。被爆者たちが書き綴った数多い原爆詩の中から次の一編を引用して私の訴えを終わりたいと思います。

ちちをかえせ ははをかえせ
としよりをかえせ
こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる
にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよのかぎり
くずれぬへいわを
へいわをかえせ

国連総会場に田中里子さんの声が滲み渡りました。その声が耳から離れませんでした。田中里子さんはいまも千の風となって「にんげんをかえせ、へいわをかえせ」とうたいあげていらっしゃるにちがいありません。

吉田嘉清

平和事務所、第五福竜丸平和協会評議員

元日本原水協代表理事

田中里子さんへの手紙

サッカーくじが私と田中さんの出会いを与えてくれました。残念ながらサッカーくじ法案は成立しましたが、サッカーくじ反対を通じて田中さんとともに活動できたことは、私と新日本スポーツ連盟の大きな宝物となっています。心から感謝いたします。

1997年5月23日、衆議院文教委員会は、わずか3時間弱の審議で法案を強行採決しました。委員会から憤りと新たな闘いの決意を固めつつ議員面会所に戻ったとき、同じく傍聴されていた田中さんをはじめ東京地婦連の方々とお会いし、その場で私は、田中さんに「子どもの教育と文化を守る国民会議」の報告集会でのご挨拶をお願いしました。田中さんは快諾され、議員面会所は期せずして合同の抗議集会となりました。この場が田中さんとのその後の深いおつきあいの始まりでした。そして、1998年2月20日、それぞれの立場で反対運動を進めてきた13団体が一堂に会し共同アピールを發表し、以来サッカーくじ反対運動はこの13団体によって国民的な運動として発展しました。そして、13団体は法案成立後も運動を継続し現在に至っています。

田中さんはいつもこの運動の中心で活躍され、文部科学省などへの要請でも常に先頭に立って参加されました。本当に頼りになる相談相手であり、田中さんの存在そのものが私たちを励ましていました。「なぜ、文科省がギャンブルに手を染めるのか」「スポーツの振興には賛成です。その予算を増やすことが文科省の役割ではないか」という田中さんの主張は説得力と迫力がありました。サッカーくじは、実施わずか6年で大きな赤字を作り、助成金も限りなくゼロに近づいており、事実上崩壊状態です。田中さんに必ずサッカーくじ廃止の報告致しますので、今少し時間を下さい。

和食昭夫

新日本スポーツ連盟副理事長

田中里子さんの略歴

- 1925年10月7日生まれ
- 1945年9月、実践女子専門学校（現実践女子大）卒
- 1948年 婦人都民クラブ（現女性都民クラブ）勤務
- 1949年1月より、東京都地域婦人団体連盟事務局に勤務
- 1952年7月、全国地域婦人団体連絡協議会創立と共に同事務局員を兼務
- 1963年7月 両団体の事務局長に就任
- 1986年3月 全国地域婦人団体連絡協議会事務局長を退任
- 1990年4月 東京都地域婦人団体連盟常任参与（現在に至る）

主な公職

税制調査会委員、国民生活審議会委員、総合エネルギー調査会委員、公正取引委員会独占懇話会委員、第五福竜丸平和協会評議員、社団法人東京のあすを創る協会理事、財団法人日本クレジットカウンセリング協会理事、社団法人くらしのリサーチセンター理事、東京消費者団体連絡センター代表委員等

主な運動

- 1951年 電気料金値上げ反対運動
- 1953年 ギャンブルで財源確保をねらうハイライ法案反対運動を展開
- 1954年 封建的家族制度復活反対運動
- 1955年 母と子の桜映画社設立
- 1964年 青少年をタバコの害から守る運動
- 1967年 公営ギャンブル廃止運動、沖縄県早期返還要求婦人・青年中央集会開催
- 1968年 ちふれ化粧品の誕生、佐藤首相に沖縄返還要請文と署名〔380万筆〕を提出
- 1970年 有害食品添加物「チクロ」追放運動
カラーテレビの二重価格に反対して、カラーテレビの買い控え運動展開
- 1971年 全国婦人会館開館
ちふれ化粧品、一般市場進出
- 1972年 無駄な包装追放運動、売買春問題ととりくむ会発足
- 1977年 原水爆禁止運動の再統一に尽力、国立婦人教育会館（当時）建設に尽力
- 1978年 第1回国連軍縮特別総会で日本の民間団体を代表して演説
- 1979年 世界の飢えた子に一日分のおやつ代を送る運動
- 1980年 中華全国婦女連合会との交流
- 1981年 バングラデシュの子らに光を！ビタミンAを送る運動
- 1986年 円高差益の消費者還元運動

- 1989年 フロンガス製品を買わない運動
- 1990年 製造物責任法制定運動
- 1992年～ サッカーくじ反対運動
- 1995年～ 冷凍庫PL裁判支援
- 1996年～ 第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ都民運動